

# KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒150 東京都渋谷区道玄坂 1-14-6

- 商品、商品の取り扱いに関するお問い合わせは、お客様相談室をご利用ください。  
お客様相談室 (東京) 電話 (03) 3477-5335 〒153 東京都目黒区青葉台 3-17-9 (ケンウッド青葉台第二ビル)  
(大阪) 電話 (06) 357-5335 〒534 大阪市都島区東野田町 1-20-5 (大阪京橋第一生命ビル)
- アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、別紙「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービスステーション、各営業所にご相談ください。

# Avino

ステレオインテグレートッドアンプ・FM/AM チューナー

## R-SA7

CD プレーヤー

## DP-SA7

ステレオカセットテープデッキ

## X-SA7

### 取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございました。  
ご使用前に、この取扱説明書をお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。

本説明書のほかに、取扱説明書・別冊『安全上のご注意』が付属されています。使用者の安全のため、必ず別冊の内容もお読みの上ご使用ください。また、取扱説明書は大切に保管して、必要になったときに繰り返しお読みください。

本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド  
KENWOOD CORPORATION

COMPACT  
disc  
DIGITAL AUDIO



# KENWOOD

B60-2657-20 (SI) (J) (AP)  
97/12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 96/12 11 10 9 8 7 6 5

### アビーノシリーズについて

アビーノシリーズをお買い上げいただき、ありがとうございます。  
 本システムでは、さまざまな組み合わせをお好みで選び、お買い上げいただけます。  
 システムの組み合わせかたはお客様のご自由ですが、それぞれの機器をシステムコントロール接続すると、次のような便利なシステム操作ができますので、必要に応じてお買い求めください。

#### リモートコントロール

アンプ・チューナーに付属するリモコンで、ソース機器(CDプレーヤー、カセットデッキ、MDレコーダー)の基本操作をすることができます。

#### オートマッチオペレーション

ソース機器側の再生を始めると、アンプ・チューナーの入力切換が自動的にその機器の入力に切り換わりします。また、アンプ・チューナーで入力切換を選べると、入力ソース機器が自動的に再生を始めます。

#### シンクロ録音

CDまたはMDから録音するとき、ソース機器(CDプレーヤーまたはMDレコーダー)の再生を始めると、連動して録音機器(MDレコーダーまたはカセットデッキ)の録音をスタートさせることができます。(MDレコーダーどうしの録音はできません。)  
 また、CDやMDのワンタッチエディット録音などの便利な機能が使えます。

#### タイマー動作

アンプ・チューナーの時計機能を使って、ソース機器(CDプレーヤー、カセットデッキ、MDレコーダー)のタイマー再生、タイマー録音ができます。

#### アビーノシリーズのシリーズ構成

- R-SA7(アンプ・チューナー)
- X-SA7(カセットデッキ)
- DP-SA7(CDプレーヤー)
- DM-SA7(MDレコーダー)

### 取扱説明書について

アビーノシリーズの中にはR-SA7(アンプ・チューナー)、DP-SA7(CDプレーヤー)、X-SA7(カセットデッキ)を説明したシステム説明書が付属している機種と、お買い上げの機種だけ(単独)の説明書が付属している機種があります。これは、別売の機器を後でお買い上げになっても、システム操作が簡単にできるように説明されているためです。お買い上げの機種にあわせて、必要な部分だけをお読みください。  
 なお、アビーノシリーズのうち、DM-SA7(MDレコーダー)につきましては、接続のしかただけをシステム説明書で説明しています。詳しい操作のしかたにつきましては、DM-SA7に付属の取扱説明書をご覧ください。

機類名 (お買い上げの機種名)	付属する取扱説明書 (説明している機種名)
基本システム (R-SA7、DP-SA7)	システム説明書(R-SA7、DP-SA7、X-SA7)
アンプ・チューナー (R-SA7)	システム説明書(R-SA7、DP-SA7、X-SA7)※
CDプレーヤー (DP-SA7)	単独説明書(DP-SA7)
カセットデッキ (X-SA7)	単独説明書(X-SA7)
MDレコーダー (DM-SA7)	単独説明書(DM-SA7)

※ システム説明書は、基本システム(R-SA7、DP-SA7)およびアンプ・チューナー(R-SA7)に付属しています。アンプ・チューナー(R-SA7)を単独でお買い上げの場合、CDプレーヤー(DP-SA7)は別売となりますのでご了承ください(説明文中では表記していません)。



### 目次

<b>準備編</b>	<b>音を出す前に</b>	<b>準備編</b>
はじめに .....	2	CDを聴く .....
もくじ .....	3	曲順を並べ替えて聴く (プログラム再生) .....
本機の特長 .....	4	繰り返し聴く (リピート再生) .....
ディスクとテープの取り扱いかた .....	5	予期しない曲順を楽しむ (ランダム再生) .....
システム構成と設置のしかた .....	6	便利なCD録音 .....
接続のしかた .....	7	便利なCD録音のタイプを選ぶ .....
アンテナの接続 .....	7	テープの長さに応じて曲順を入れ替える (タイム編集録音) .....
オーディオコードの接続 .....	8	いい曲があれば、その曲だけ録音する (ワンタッチエディット1曲録音) .....
スピーカーコードの接続 .....	10	一枚のCDをワンタッチで録音する (ワンタッチエディット全曲録音) .....
システムコントロールコード・電源コードの接続 .....	11	高音質で聴く (ピュアA) .....
各部のなまえと働き .....	12	ピュアAモードで聴く .....
本体部 .....	12	時刻合わせ .....
リモコン部 .....	14	タイマーを使う .....
リモコンの使いかた .....	15	オペレートイージートゥーユースタイマー(O.T.T.) .....
		おやすみタイマー .....
		プログラムタイマー予約 .....
		<b>基礎編</b>
		「聴く」、「録る」の基本です
音を出してみましょう .....	16	音を出してみましょう .....
基本的な使いかた .....	16	基本的な使いかた .....
CDを聴く .....	18	CDを聴く .....
テープを聴く .....	20	テープを聴く .....
放送を聴く .....	24	放送を聴く .....
録音してみましょう .....	26	録音してみましょう .....
録音のしかた .....	26	録音のしかた .....
		<b>知識編</b>
		知っているとか何とか便利です
		知っておきましょう .....
		メンテナンス .....
		参考 .....
		故障と思われる症状ですが・・・ .....
		定格 .....
		保証とアフターサービス (必ずお読みください) ... ..
		<b>安全編(別冊)</b>
		安全にお使いいただくために



安全編には、この製品を正しく安全にご使用いただくための注意事項がまとめられています。ご使用前に、必ずお読みください。

準備編

準備編

基礎編

応用編

知識編

# 本機の特長

はじめに

R-SA7/DP-SA7/X-SA7 (J)

## イージーオペレーション

アビノシリーズをシステムコントロール接続すると、R-SA7の入力切換キーで入力 (TAPE, TUNER, CD, MD) を切り換えるだけで、選んだ機器が再生を始めます。逆に、目的の機器を再生させると、入力切り換えが自動的にその機器に切り換わります。

## CDプレーヤー

プログラム再生、リピート再生やランダム再生など、楽しみ方もいろいろあります。

## 便利な編集録音

タイム編集録音：指定時間内に曲がとぎれないように録音します。  
ワンタッチエディット機能：CDを聴いていて、好きになった曲だけワンタッチでテープに録音したり、1枚まるごとワンタッチで録音できます。

## 小音量時の高音質モード "ピュア A"

セットのそばで聴くときや、夜間など小音量で聴くときは、純A級動作モード(ピュアA)にすることをおすすめします。ひずみが少なく、滑らかな高音質をお楽しみいただけます。大きめの音量で聴くときは、通常モードでお楽しみください。

## カンタン操作のタイマー

目覚ましタイマー、おやすみタイマー簡単にセットできます。毎日働くプログラムタイマーも予約しておけます。



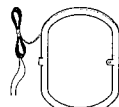
## 付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

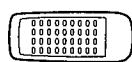
### R-SA7で使用する付属品

(R-SA7を単独でお買い上げのときは、この付属品のみ付属しています。)

AM ループアンテナ(1個)



リモートコントロールユニット(1個)



AMループアンテナスタンド(1個)



FM 室内アンテナ(1本)



リモコン用乾電池 (R6/SUM-3) (2本)



### DP-SA7で使用する付属品\*

オーディオコード(1本)



システムコントロールコード(1本)

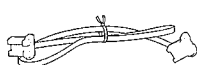


### X-SA7(別売)に付属する付属品

オーディオコード(2本)



システムコントロールコード(1本)



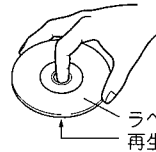
\* 基本システム (R-SA7、DP-SA7) をお買い上げのときは、DP-SA7で使用する付属品はR-SA7の箱に入っています。

準備編

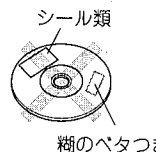
R-SA7/DP-SA7/X-SA7 (J)

# ディスクとテープの取り扱いかた

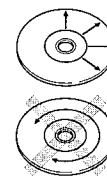
## ディスク取扱上のご注意



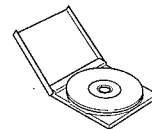
**取り扱い**  
再生面にふれないように持ってください。



- 再生面はもちろん、ラベル面にも紙やテープなどを貼らないでください。
- シール類をはがした後、糊がラベル面に残っていると、故障の原因になります。糊のベタつきがある場合、必ずアルコールでふき取ってからご使用ください。特に中古CD、レンタルCD等にご注意ください。



**お手入れ**  
ディスクに指紋や汚れがついたときは、やわらかい布などで、放射状に軽くふきとってください。



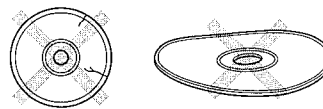
**保存**  
長い間使用しないときは、本機から取り出し、ケースに入れて保管してください。

## 本機で使用できるディスクについて

- CD (12cm, 8cm), CDV (オーディオパートのみ)
- CD - G (CDグラフィックス) ディスクは、本機では音声のみの再生 になります。



**注意** 異常なディスクは使用しない

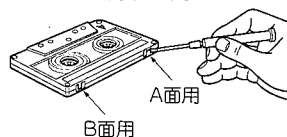


再生中、ディスクはプレーヤー内で高速回転しています。ひびや欠けのあるディスク、大きくそったディスク等は絶対に使用しないでください。プレーヤーの破損、故障の原因になります。

## カセットテープについてのご注意

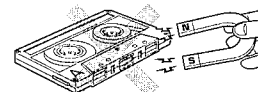
### 誤消去防止装置

大切な録音のあとには、カセットのツメを折ってください。誤消去・誤録音を防げます。



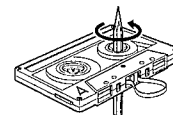
### カセットテープの保管について

直射日光下や暖房器などのそばに放置しないでください。また、磁石や磁気は近づけないでください。



### テープがたるんでいる場合

このような場合には、リール軸に鉛筆などを差し込んで、テープのたるみをとってから装着してください。



### 再び録音するには

ツメを折った所だけにテープをはる。

### 1.110分以上のテープについて

110分以上のテープは大変薄く、ピンチローラーに巻きついたり、切れたりトラブルが発生しやすいので、ご使用はお避けください。

### 2.エンドレステープについて

エンドレステープは故障の原因となりますので、ご使用にならないでください。

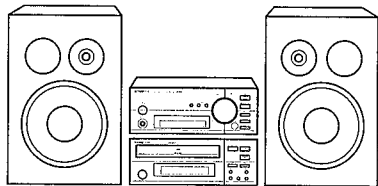


準備編

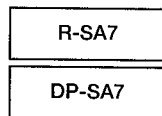
アビーノシリーズでは、お買い上げいただいた機器によって、さまざまな組み合わせでお楽しみいただくことができます。お買い上げの機種により設置のしかたが異なりますので、図のように正しく設置してください。R-SA7を単独でお買い上げのときは、接続する機器の取扱説明書をお読みのうえ、正しく設置してください。

基本システム (R-SA7, DP-SA7)

前から見たところ

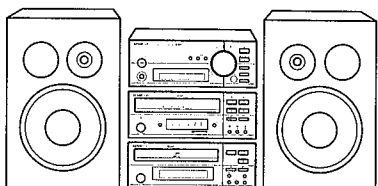


設置のしかた



基本システム + カセットデッキ (R-SA7, DP-SA7, X-SA7)

前から見たところ

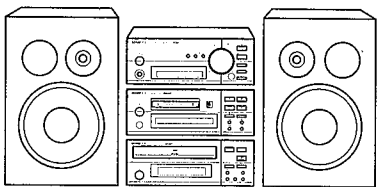


設置のしかた

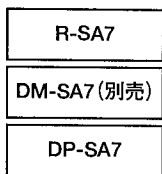


基本システム + MDレコーダー (R-SA7, DP-SA7, DM-SA7)

前から見たところ

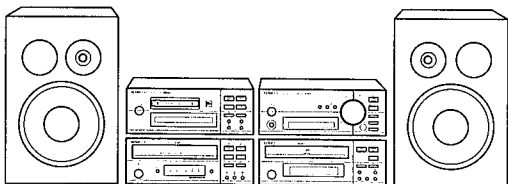


設置のしかた

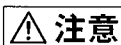
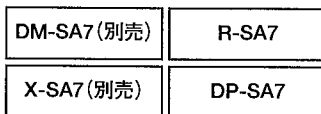


フルシステム (R-SA7, DP-SA7, DM-SA7, X-SA7)

前から見たところ



設置のしかた



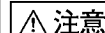
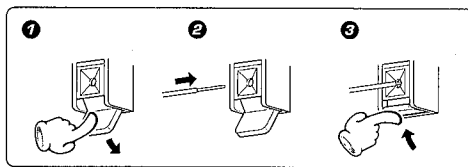
**注意**

R-SA7(アンプ・チューナー)は、電源オン時には、内部で生じる熱を放熱しています。設置の際は、R-SA7を必ず一番上に設置し、放熱の妨げになるものを天板の上に置かないでください。

1. アンテナの接続

アンテナは、図のように接続します。

接続が終了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。



**注意** 屋外アンテナ設置上のご注意

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

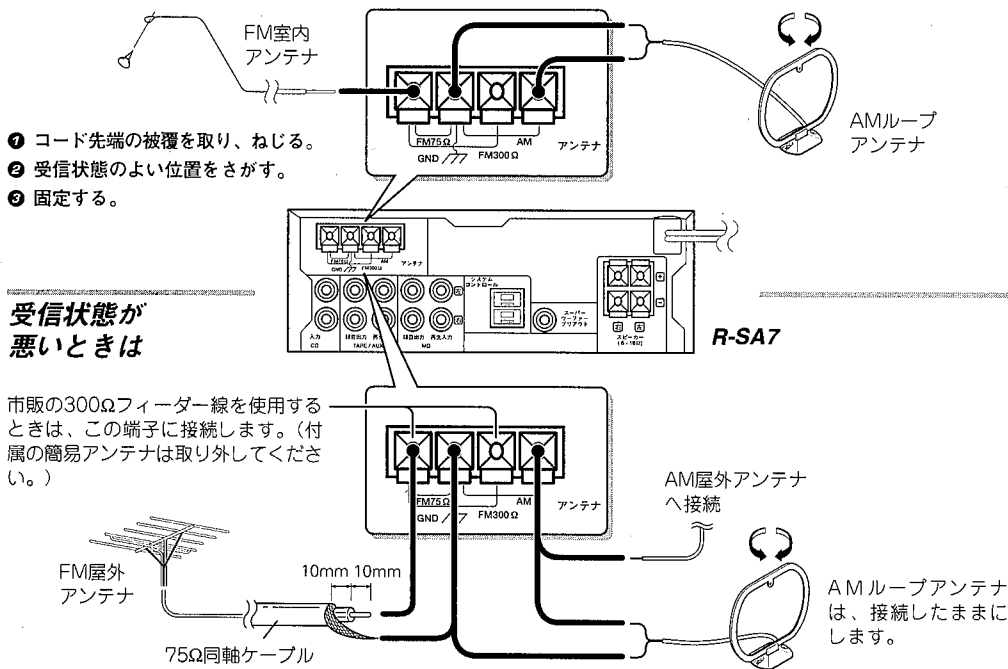
付属アンテナの接続

FM室内アンテナ

付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、屋外アンテナ(別売)の接続をお勧めします。屋外アンテナを接続したら、簡易アンテナは取り外してください。

AMループアンテナ

付属のアンテナは室内用です。本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで、受信状態の一番よい方向に向けます。



受信状態が悪いときは

市販の300Ωフィーダー線を使用するときは、この端子に接続します。(付属の簡易アンテナは取り外してください。)

FM屋外アンテナ

75Ω同軸ケーブルを使って屋内へ引込み、FM75Ω端子に接続します。屋外アンテナを接続したら、簡易アンテナは取り外してください。

## 2. オーディオコードの接続

ここでは、システム接続することを考慮して、別売の機器の接続もあわせて説明しています。お買い上げの機器に合わせて正しく設置し、必要なコードを接続してください。

### マイコンの誤動作について

正しく接続したのに動作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、「故障と思われる症状ですが…」を参照してマイコンをリセットしてください。

→ 45

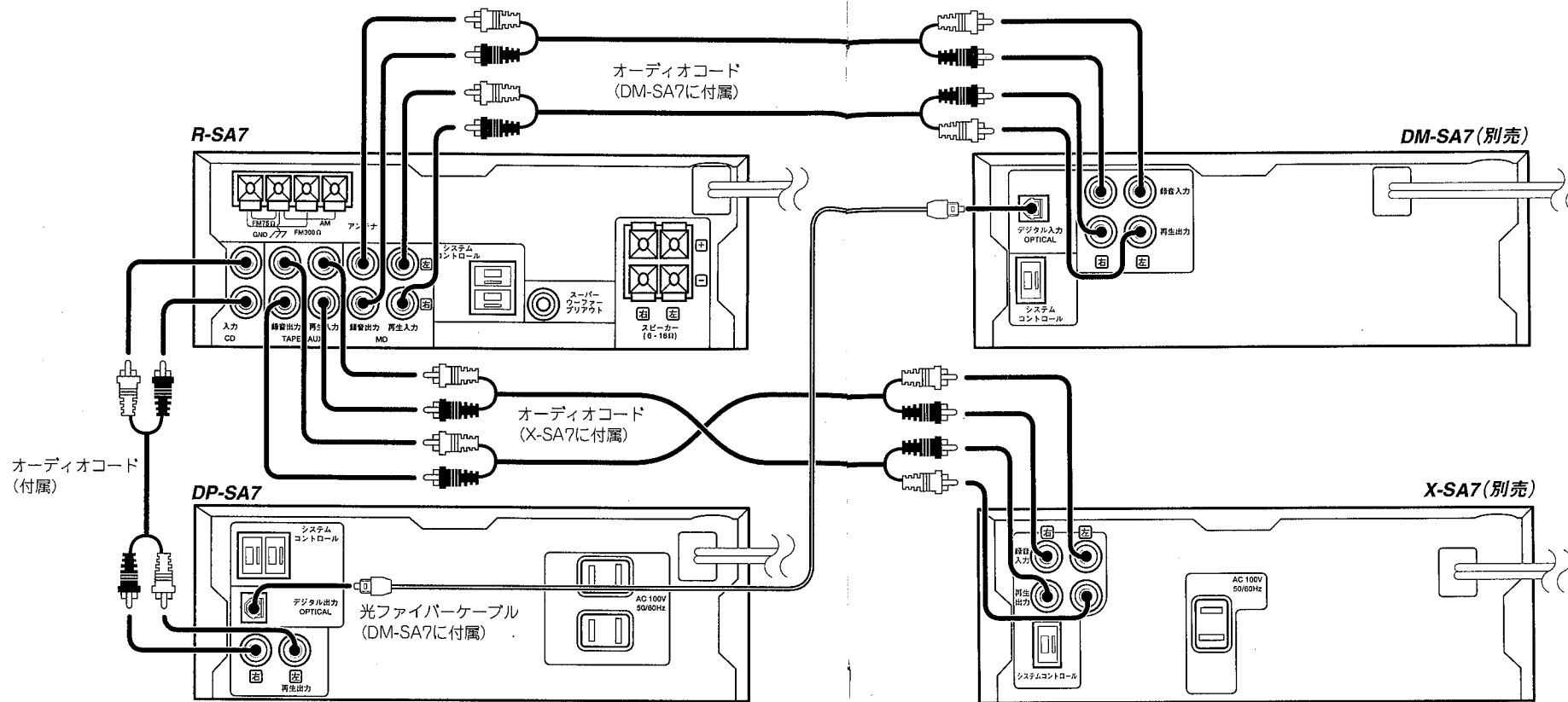


### 注意

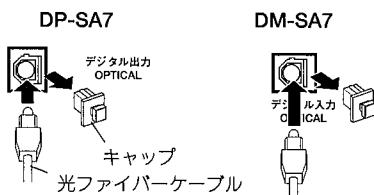


### 接続のご注意

接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。  
機器の接続は、図のように行なってください。



### 光ファイバークーブルの接続について



デジタル接続に使用します。デジタル伝送により、CDの高音質を損なうことなく録音できます。

必要に応じて、キャップをはずし、光ファイバークーブルを接続してください。



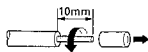
1. 関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書も、合わせてご覧ください。
2. 光ファイバーは真っ直ぐに、カチッと音がするまで差し込んでください。
3. デジタル端子を使わないときは、必ず保護キャップを付けておいてください。
4. 光ファイバークーブルは、絶対に折り曲げたり、束ねたりしないでください。

### 3.スピーカーの接続

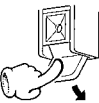
スピーカーは、図のように接続します。

接続が終了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。

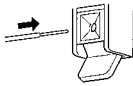
#### ① コードの処理



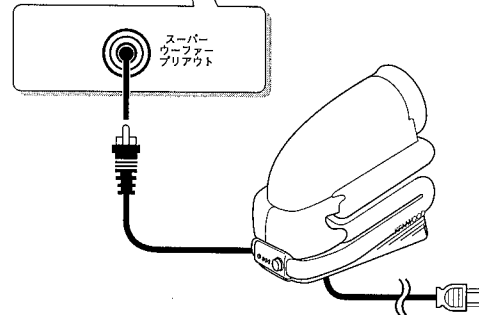
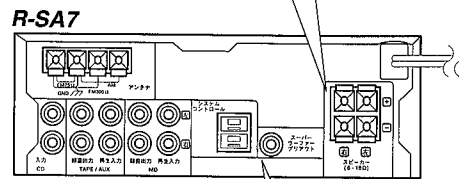
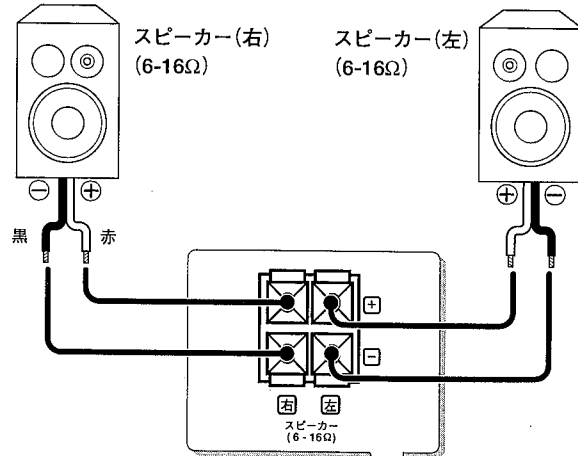
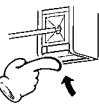
#### ② レバーを押す



#### ③ コードを差し込む



#### ④ レバーを戻す



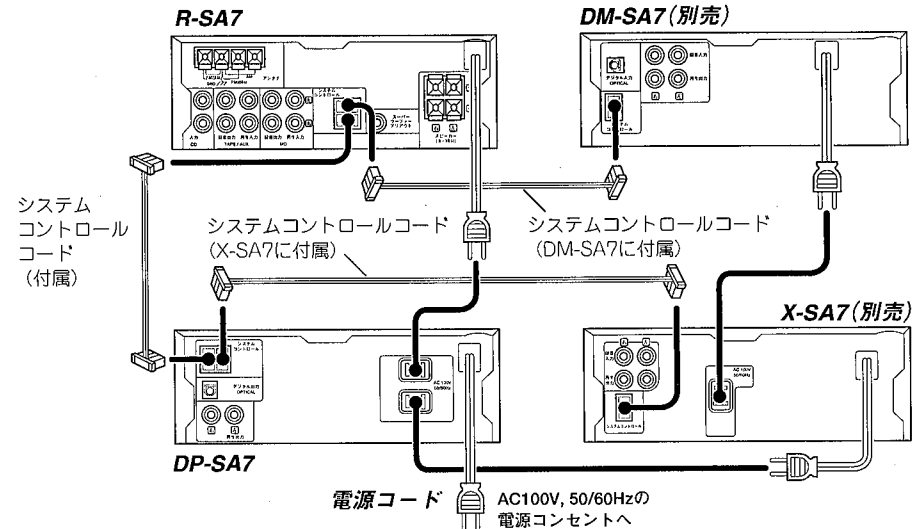
スーパーウーファー (SW-05) (別売)

重低音を力強く再生します。どのような再生のときでも使用できます。

- スピーカーコードの+と-は絶対にショートさせないでください。保護回路が働き、音が出なくなります。
- 左右を逆にしたり、極性を間違えて接続すると、楽器などの位置がはっきりしない、不自然な音になります。正しく接続してください。

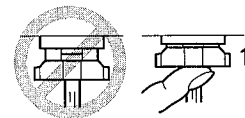
### 4. システムコントロールコードと電源コードの接続

システムコントロールコードと電源コードは、図のように接続します。



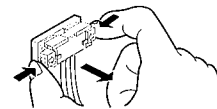
#### システムコントロールコードの接続

コネクタを差し込む



カチッと音がするまで平行に差し込み、ロックする

コネクタを抜く



コネクタ一部分の両端を押しながらまっすぐに引き抜く

#### 電源コードの接続

電源コード以外のすべての接続が終了してから、電源コードのプラグをコンセントに差し込んでください。

- 基本システムの他に、別売のMDレコーダー (DM-SA7) だけをお買い上げのかたは、DM-SA7の電源コードをDP-SA7の背面にあるACコンセントに差し込んでください。

#### ⚠ 警告 ACコンセント

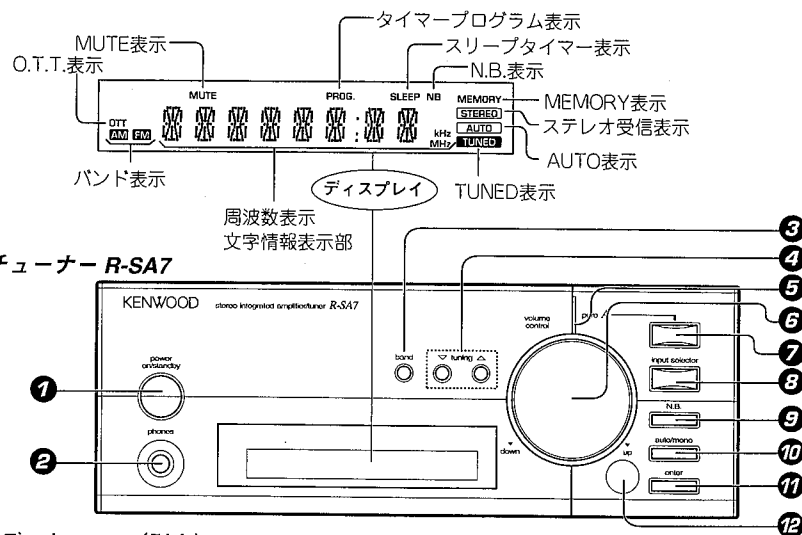
背面のACコンセントが供給できる電力はそれぞれ200W (DP-SA7)、100W (X-SA7) までです。接続する装置の消費電力の合計が200W (DP-SA7)、100W (X-SA7) を超えないようにしてください。火災の原因になります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。

また、供給電力以内であっても、テレビなど電源を入れたときに大電流が流れる機器は使用しないでください。



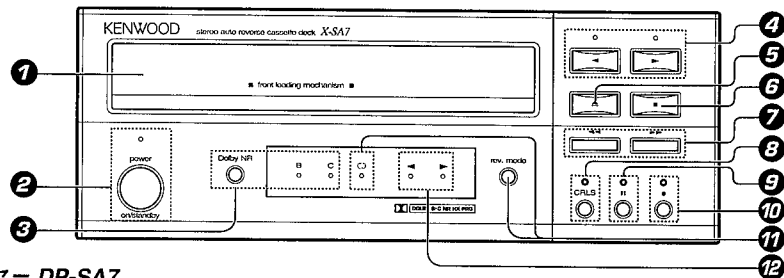
1. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音がでなくなったり、雑音が発生することがあります。
2. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。電源コードを抜かずして接続コードの抜き差しを行うと、誤動作または破損の原因となります。

本体部

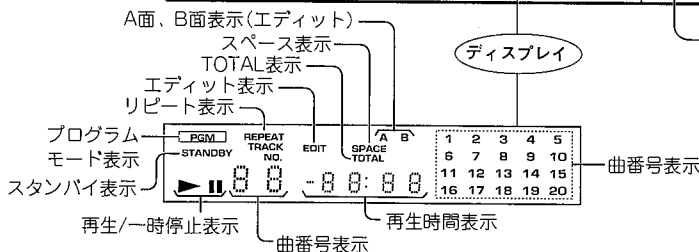
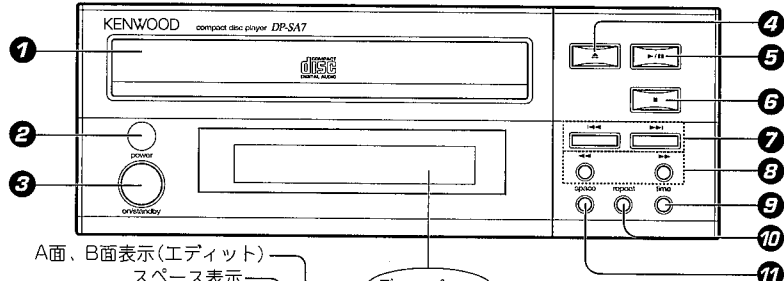


アンプ・チューナー R-SA7

カセットデッキ X-SA7(別売)



CDプレーヤー DP-SA7



準備編

アンプ・チューナー R-SA7

- ① "power"キー → [16]  
電源のオン/オフを切り換えます。システム接続しているときは、システム全体の電源のオン/オフを切り換えます。
- ② "phones"端子 → [17]  
ステレオミニプラグのヘッドホン(別売)を接続します。
- ③ "band"キー → [24]  
電源オンのとき： 放送バンドを切り換えます。  
電源オフのとき： タイマー予約に使用します。
- ④ "tuning" (Δ ▽)キー → [24]  
電源オンのとき： 放送局の選択に使用します。  
電源オフのとき： タイマー予約に使用します。
- ⑤ ピュアAインジケータ → [37]  
ピュアAモードのときに点灯します。
- ⑥ "volume control"つまみ → [16]  
通常は、音量の調節に使用します。タイマー予約や、時刻合わせにも使用します。

- ⑦ "pure A"キー → [37]  
ピュアAモードのオン/オフを切り換えます。
- ⑧ "input selector"キー → [16]  
入力ソースを選びます。TAPE、CD、MDを選んだとき、すでにテープやディスクがセットされていれば、自動的に再生が始まります。
- ⑨ N.B.キー → [17]  
音質の補正に使用します。
- ⑩ "auto/mono"キー → [25]  
電源オンのとき： 選局モードの切り換えに使用します。  
電源オフのとき： 時刻合わせに使用します。
- ⑪ "enter"キー → [25] - [38]  
放送局のプリセットや、時刻合わせ、タイマー設定などに使用します。
- ⑫ リモコン受光部 → [15]  
R-SA7のシステムリモコン(RC-SA7)を使用するときには使用します。

準備編

カセットデッキ X-SA7

- ① テープトレイ → [20]  
カセットテープを収納します。
- ② "power"キー/スタンバイインジケータ → [16]  
電源のオン/オフを切り換えます。システム接続しているときは、使用しません。
- ③ Dolby NRキー → [21]  
ドルビーノイズリダクションのオン/オフを切り換えます。
- ④ 再生キー(◀ ▶)/動作インジケータ → [20]  
選ばれている走行方向の動作インジケータが、再生録音中は点灯し、早送り・早戻し中は点滅します。
- ⑤ オープン/クローズキー(Δ) → [20]  
テープを出し入れするときに、テープトレイを開きます。

- ⑥ 停止(■)キー → [21]
- ⑦ 早送り、早戻し(◀▶)キー → [21]
- ⑧ CRLSキー/インジケータ → [28]  
録音する音楽ソースに合わせて、録音レベルを自動設定します。
- ⑨ 一時停止(⏸)キー/インジケータ → [21]
- ⑩ 録音(●)キー/インジケータ → [26]  
録音を始めます。録音中に押しと、約4秒間の無音部分(アキ)を作ってから停止します。
- ⑪ "rev. mode"キー/インジケータ → [21]  
デッキのリバースモード(両面、片面)を切り換えます。
- ⑫ 走行方向インジケータ → [21]  
テープの進む向きを表示します。

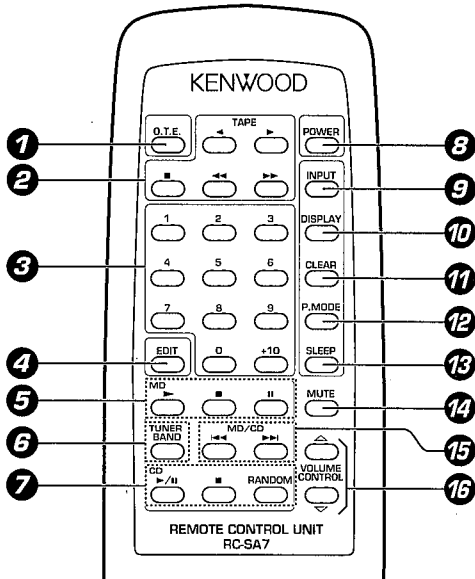
CDプレーヤー DP-SA7

- ① ディスクトレイ → [18]  
CDを収納します。
- ② リモコン受光部 → [15]  
DP-SA7用の別売リモコン(RC-P0706)を使用するときには、使用しません。
- ③ "power"キー → [16]  
電源のオン/オフを切り換えます。システム接続しているときは、使用しません。
- ④ オープン/クローズキー(Δ) → [18]  
ディスクトレイを開閉します。

- ⑤ 再生/一時停止キー(▶||) → [18]
- ⑥ 停止(■)キー → [19]
- ⑦ スキップ(⏮)キー → [19]
- ⑧ 早送り、早戻し(◀▶)キー → [19]
- ⑨ "time"キー → [19]  
CDの時間表示を切り換えます。
- ⑩ "repeat"キー → [31]  
CDを繰り返し再生するときに使用します。
- ⑪ "space"キー → [30]  
プログラム再生のときに、曲間に数秒間の無音部分を作ります。

## リモコン部

システムコントロールコードを接続することにより、本リモコンでシステム全体を操作できます。リモコンのキーのうち本体部と同じ名前のキーは、本体部と同じ働きをします。



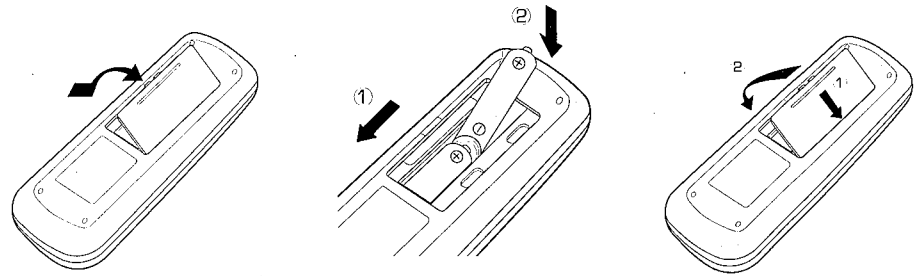
- ① O.T.E.キー → [33]  
CDの再生中に押すと、そのとき再生している曲だけをテープへ録音します。停止中に押すと、CDを1曲目から録音します。
- ② カセットデッキ操作キー → [20]  
カセットデッキ(X-SA7)を操作するときに使います。
- ③ 数字キー → [19] → [24]  
入力切替がCDのとき、数字キーとして使います。入力切替がチューナーのとき、プリセットした放送局を呼び出します。
- ④ EDITキー → [34]  
CDの編集録音(タイム編集録音)のときに使います。
- ⑤ MD操作キー  
MDレコーダー(DM-SA7)を操作するときに使います。
- ⑥ BANDキー → [24]  
チューナーの放送バンドを切り換えます。
- ⑦ CD操作キー → [18]  
CDプレーヤーを操作するときに使います。

- ⑧ POWERキー → [16]  
アンプ・チューナー(R-SA7)の電源のオン/オフを切り換えます。システム接続しているときは、システム全体の電源のオン/オフを切り換えます。
- ⑨ INPUTキー → [16]  
入力ソースを選びます。TAPE、CD、MDを選んだとき、すでにテープやディスクがセットされていれば、自動的に再生が始まります。
- ⑩ DISPLAYキー  
アンプ・チューナー(R-SA7)の表示内容を切り換えます(時計表示 ↔ 入力(周波数)表示)。
- ⑪ CLEARキー → [30]  
CDプレーヤーのプログラム再生の内容を最後から1曲ずつ消去します。
- ⑫ P.MODEキー → [29]  
CDの再生曲順をプログラムするときに使います。
- ⑬ SLEEPキー → [39]  
おやすみタイマーを設定するときに使います。
- ⑭ MUTEキー → [17]  
一時的に音を消すときに使います。
- ⑮ ◀ ▶ キー → [19] → [26]  
(スキップ/プリセットコール)  
チューナーのとき:  
プリセットコールキーとして使います。  
CDまたはMDのとき:  
スキップキーとして使います。
- ⑯ VOLUME CONTROLキー → [16]  
本体部のボリュームコントロールつまみと同じ働きをします。ただし、AIボリュームは働きません。

## リモコンの使いかた

## 電池の入れかた

- ① カバーを開く ② 電池を入れる ③ カバーを閉める



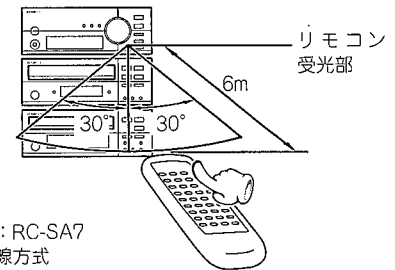
- 単3乾電池 (R6/SUM-3) 2個を極性マークに従って入れる。

## 操作のしかた

すべての電源プラグをコンセントに差し込み、リモコンのPOWERキーを押すと、電源がオンになります。電源がオンになったら、操作したいキーを押します。

- リモコンの各操作キーを押してから次のキーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。

## 操作範囲のめやす



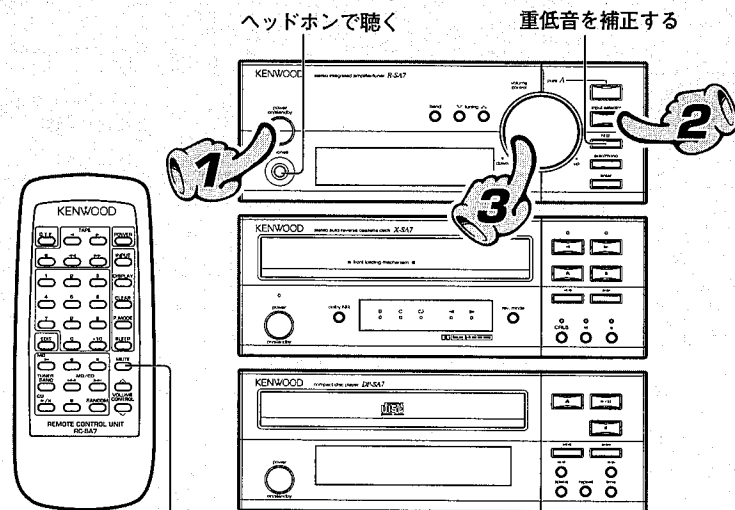
型名: RC-SA7  
赤外線方式

- ① 付属の乾電池は動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
- ② 操作できる距離が短くなったら、2個とも新しい電池と交換してください。
- ③ リモコン受光部に直射日光や高周波点灯(インバーター方式等)の蛍光灯の光が当たると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。



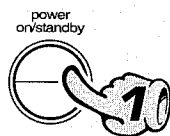
RSA7/DP-SA7/X-SA7 (J)

## 基本的な使いかた



一時的に音を消す

アンプ・チューナーの  
"power"キーを押す



### 1. 電源をオンにする(オフにする)

電源がオンのときに  
"power"キーを押すとオフ  
になります。

- システム全体のオン/オフができません。リモコンのPOWERキーも、同じ働きをします。
- 電源がオフのときは、表示部が暗くなります。(ディマー機能)

### 2. 聴きたいものを選ぶ

input selector

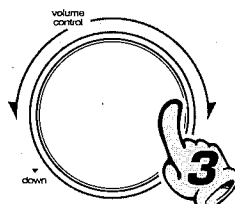


- CD → 18
- テープ → 20
- 放送 → 24

MDはMDレコーダー(DM-SA7)の取扱説明書をご覧ください。

- CD、TAPEを選んだとき、すでにディスクやテープが入っている場合は、再生が始まります。

### 3. 音量を調節する



このシステムは小音量再生の性能向上の為、専用の回路を使用しております。その為、大音量でお楽しみいただくときに、回路の切り換えをボリュームレベル表示60と61の間で行っており、一瞬音が途切れるように聞こえますが、これは異常ではありません。

RSA7/DP-SA7/X-SA7 (J)

### 一時的に音を消す (リモコンのみ)

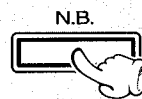


リモコン

- もう一度押すと、元の音量に戻ります。
- 音量を操作したときも解除されます。

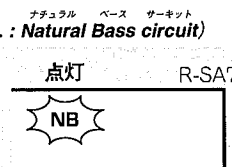


### 音質を補正する (N.B. : Natural Bass circuit)



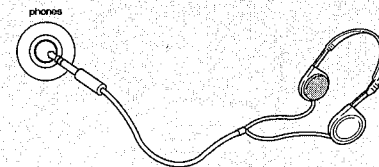
押すたびに表示が切り換わります。

- ① NB ON 1.....音量にあわせて高音域と低音域を補正(小音量時に有効です)
- ② NB ON 2.....音量にかかわらず高音域と低音域を補正
- ③ NB OFF



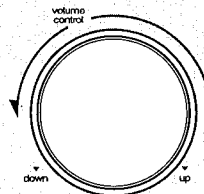
### ヘッドホンで聴く

① ヘッドホンのプラグをphones端子に差し込む



- ステレオミニプラグ付きのヘッドホンを使用します。
- スピーカーから音が出なくなります。

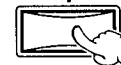
② 音量を調節する



### オートパワーセーブ機能について

電源がオンで、録音も再生もしていない状態のとき、30分以上放置すると自動的に電源がオフになる機能です。この機能は、次の操作で、使う/使わないを選べます。

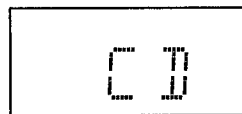
電源がオフのときに押す



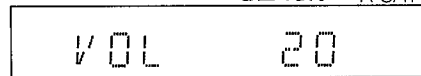
押すたびに表示が切り換わります。

- ① SAVE ON.....オートパワーセーブを使う
  - ② SAVE OFF... オートパワーセーブを使わない
- 入力切替がチューナーのときは、音量がゼロのときに限り働きます。

CDを選んだとき R-SA7



音量の表示 R-SA7

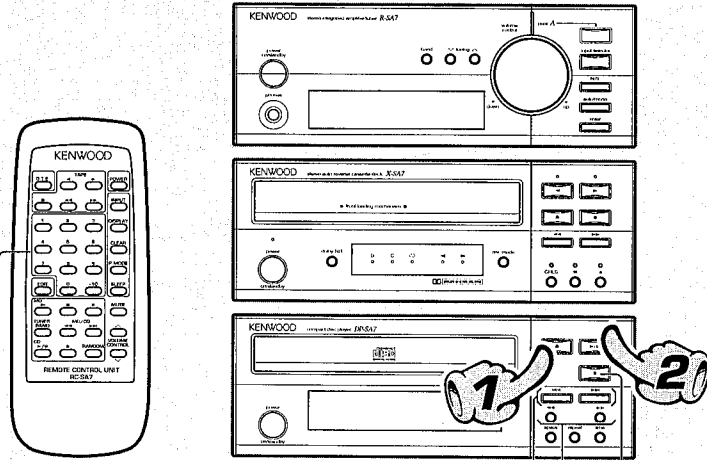


- 早く回すと、変化量が大きくなります。(AI ボリューム機能)
- 表示部に目安の数字が表示されます。

### パワースイッチのスタンバイについて

本システムではスタンバイ状態(R-SA7が時刻表示、DP-SA7がSTANDBY表示、X-SA7がスタンバイインジケータ点灯)のときは、メモリー保護のため、微弱な通電を行っています。このとき、リモコン操作によっても電源のオンができます。

# CDを聴く

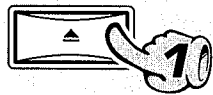


好きな曲から聴く

曲を飛び越す  
早送り、早戻しする  
再生を止める

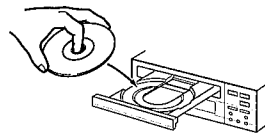
基礎編

## 1. ディスクを入れる



- ① トレイを開ける
- ② ディスクを入れる
- ③ トレイを閉める

ラベル面を上にする



キーを押すとトレイが開き、もう一度押すと閉まります

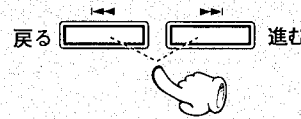
## 2. 再生をはじめる



電源がオンのときに、CDプレーヤーにあらかじめディスクを入れておくと、入力切換をCDにするだけで再生が始まります。

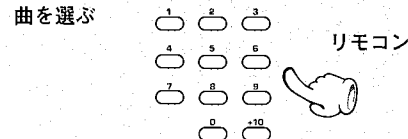
基礎編

### 曲を飛び越す



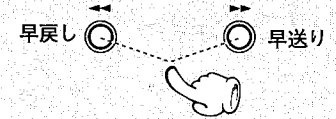
- 押した方向に飛び越して、選んだ曲の最初から再生します。
- 再生中に ◀◀ キーを押すと、その曲の最初に戻ります。

### 好きな曲から聴く



数字キーを押す順序は  
 23曲目なら [+10] [+10] [3]  
 40曲目なら [+10] [+10] [+10] [+10] [0]

### 早送り・早戻しする



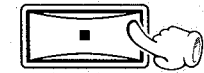
- 手を離したところから再生します。

### 一時停止する



- 押すたびに、一時停止と再生が切り換わります。

### 再生を止める



### CDプレーヤーの時間表示について

"time"キーを押すたびに、ディスプレイの表示が切り換わります。

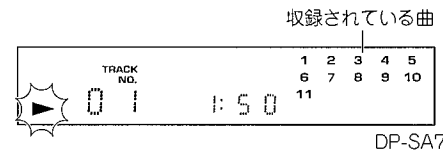
time



- ① 1:23 再生中の曲の経過時間
- ② - 2:37 再生中の曲の残り時間
- TOTAL
- ③ 23:45 ディスク全体の経過時間
- TOTAL
- ④ - 35:15 ディスク全体の残り時間

- エディットモードとランダムモードでは、再生中の曲の表示のみです。

- 再生面には、触れないようにします。



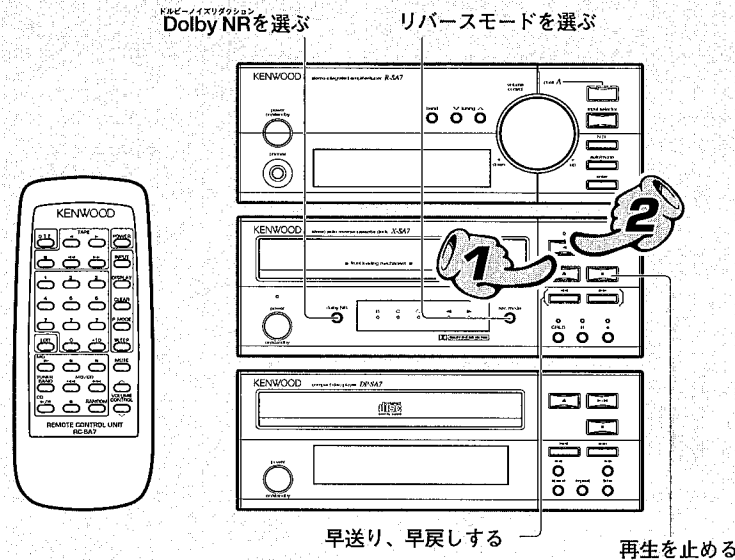
- 数秒後に1曲目から再生します。

### 注意

レーザー光源をのぞかない

レーザー光が目当たると、視力障害を起こすことがあります。

# テープを聴く

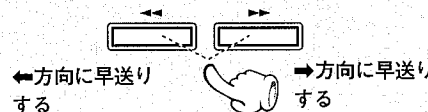


## 一時停止する



- キーの上のインジケーターが点灯します。
- 再生を再開するときは、再生キーを押します。

## 早送り・早戻しする



- 早送りを止めるときは、■ キーを押してください。

## リバースモードを選ぶ

rev. mode



押すたびに切り換わります。

- ① "∞"点灯.. 両面をエンドレス再生する (両面を録音して止まる)
- ② 消灯..... 片面のみを再生(録音)して止まる

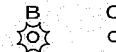
## 再生を止める



## ドルビー NRを選ぶ

ドルビー-NRシステムは、テープを聴くときの"サー"というヒスノイズをできるだけ聞こえにくくするためのシステムです。

Dolby NR



押すたびに切り換わります。

- ① "B" 点灯....ドルビー-B NRを使う
- ② "C" 点灯....ドルビー-C NRを使う
- ③ "B" "C" 消灯....ドルビー-NRを使わない

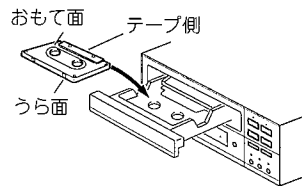
- ドルビー NR をオンにして録音したテープを再生するときは、録音したドルビー NRを選んで再生してください。

基礎編

基礎編

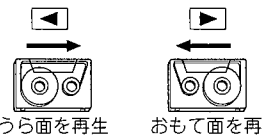
## 1. カセットテープを入れる

- ① トレイを開ける
- ② テープを入れ、トレイを閉める



## 2. 再生する

再生したい走行方向のキーを押します。



電源がオンのときにカセットデッキにあらかじめテープを入れておくと、入力切換をTAPEにするだけでカセットデッキの再生が始まります。

- テープは、図のように正しく入れてください。間違った入れ方をすると、故障の原因となります。
- ノーマル(TYPE I)、ハイ(TYPE II)、メタル(TYPE IV)のテープ選択は、自動設定されます。
- テープは、たるみのない状態にしてください。

## 走行方向表示について

イージーオペレーションなどで、再生や録音が自動スタートするときの、テープが進む方向を、◀▶インジケーターの点灯で示します。最後にテープを止めたときの方向が記憶されます。(向きを変えるときは、再生したい方向のキーを押してから■キーを押します。)

走行方向表示



- 走行方向が逆のときは、再生したい方向のキーを押してください。

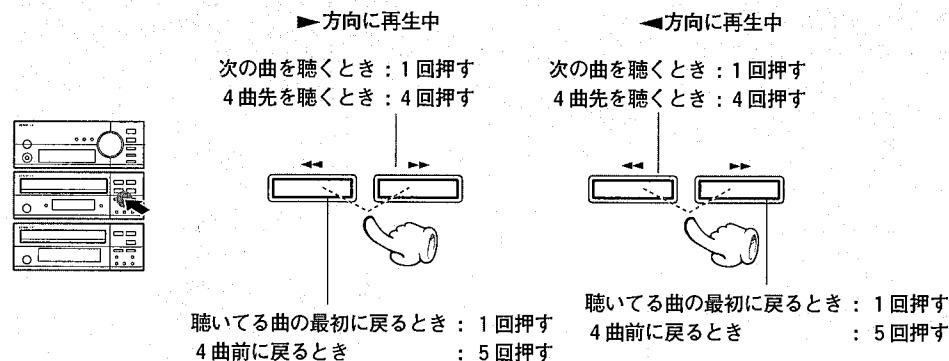


## DPSS

DPSS(ダイレクト・プログラム・サーチ・システム)で、4秒以上の無録音部分を「曲間」として探し出して、カセットテープをCDのように手軽に操作できます。

## 飛び越し選曲

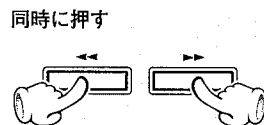
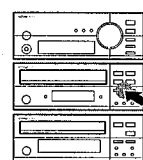
曲の頭出しをしたり、途中の曲を飛び越して、目的の曲の最初から再生することができます。最大16曲まで飛び越せます。



## 無音部分を早送りして聴く(ダッシュ&amp;プレイ)

再生中に10秒以上の無音があると、その部分を自動的に早送りし、音声のある部分だけを再生します。

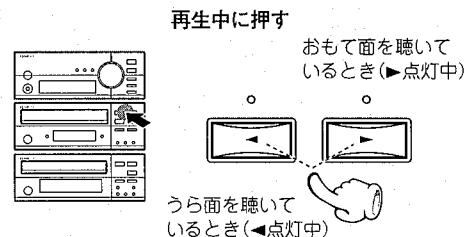
## 本体のみ



- リバースモードの状態で作動が変わります。
- ① "⏮"点灯.. 両面を8回繰り返し再生して止まる
- ② 消灯.....片面のみを8回繰り返し再生して止まる
- 停止キーを押すと再生が停止し、ダッシュ&プレイは取り消されます。

## 同じ曲を繰り返し聴く(1曲リピート)

同じ曲を16回繰り返し再生します。

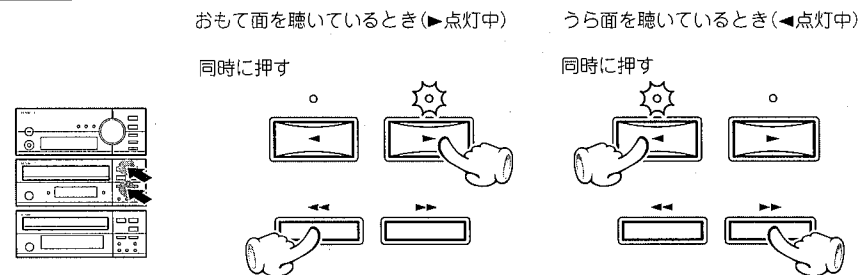


- そのとき聴いている曲を、16回繰り返し再生し、通常の再生に戻ります。
- 停止キーを押すと再生が停止し、1曲リピートは取り消されます。

## 巻き戻し再生

そのとき聴いている面の最初まで巻き戻してから、再生が始まります。

## 本体のみ



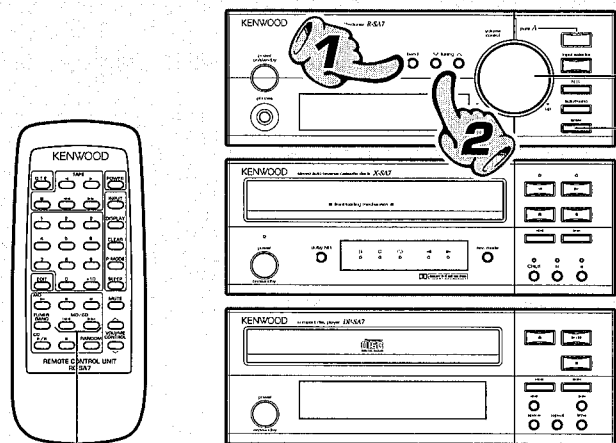
次のようなテープでは、DPSS機能が正常に動作しません。

- 会話、落語などで音声4秒くらい途切れるテープ
- クラシック音楽など、1曲の中に、音量が極端に小さくなる場所のあるテープ
- 曲間に、大きな雑音などが録音されているテープ
- 曲間が4秒未満のテープ
- 小さな音で録音されたテープ
- クロスフェード録音(前曲の最後に、次曲の最初が重なっていること)されたテープ

# 放送を聴く

放送局を最大40局まで記憶させ、ワンタッチで受信できます。AMステレオ放送にも対応しています。

放送局を一つずつ記憶させる



プリセットコール

band



## 1. 放送バンドを選ぶ

押すたびに切り換わります。

- ① FM
- ② AM

周波数が上がる

## 2. 放送局を選ぶ

放送局を記憶させていない場合

- オート選局のとき : 押すたびに次の放送局を受信します。
- マニュアル選局のとき : 受信するまで繰り返し押し。または、押したままにする。

リモコン

放送局を記憶させた場合(プリセットコール)

キーを押すたびに、記憶されている放送局が順に切り換わります。

- ▶▶を押すと... 1 → 2 → 3 ..... 38 → 39 → 40 → 1 .....
- ◀◀を押すと... 40 → 39 → 38 ..... 3 → 2 → 1 → 40.....

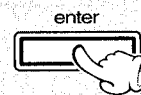
放送局を選ぶ



## 放送局を一つずつ記憶させる(プリセット)

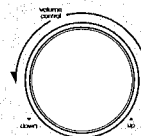
① 受信中に"enter"キーを押す

途中で5秒以上放置すると、プリセットは中止されます。

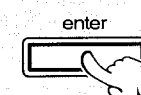


② 1~40の"プリセット番号"を選ぶ

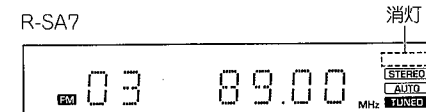
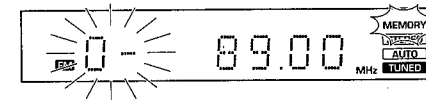
途中で5秒以上放置すると、プリセットは中止されます。



③ もう一度"enter"キーを押す

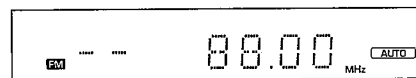


R-SA7 "MEMORY"点灯(約5秒間)



- プリセットを続けるときは、手順①、②、③を繰り返します。
- 同じ番号を重ねて記憶させると、新しい設定内容に変更されます。

R-SA7



## 選局方法の切り換えについて

auto/mono



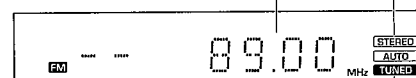
押すたびに切り換わります。

- ① "AUTO"点灯 (オート選局)
- ② 消灯 (マニュアル選局)

電波が弱く、雑音が多いときはマニュアル選局にします。(マニュアル選局のとき、ステレオ放送はモノラル受信となります)

- 通常はAUTO(オート選局)にしておきます。

R-SA7



周波数の表示 ステレオ受信時に点灯

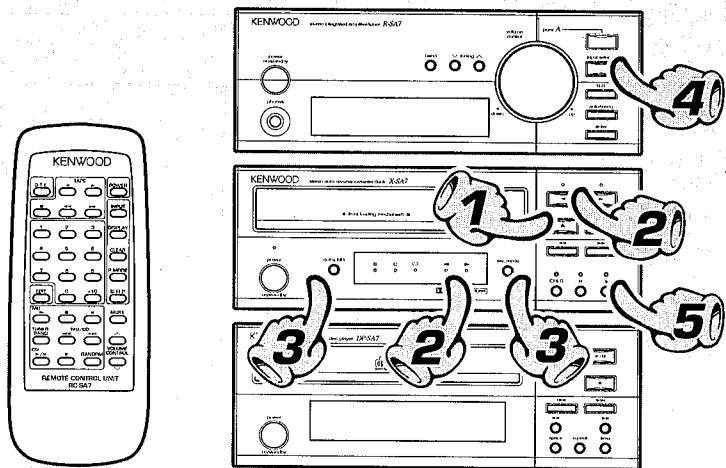
受信すると" TUNED "が点灯

- 押したままにすると、約0.5秒間隔で放送局をスキップします。
- リモコンの数字キーで数字を入力しても、プリセットコールができます。入力の際に、10の桁を押し間違えた場合は、+10キーを数回押し、もとの表示に戻してから入力し直してください。



## 録音のしかた

本機はメタルテープでの録音はできませんのでご注意ください。



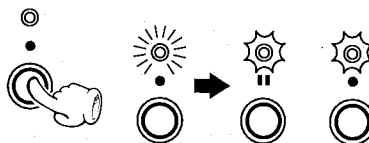
### 録音を一時停止する



●録音を再開するときは、録音キーを押します。

### 録音を中断するには

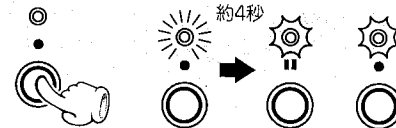
録音を中断した直後に約4秒間の無音部分をつくります。



●約4秒後に録音ポーズ状態になります。

### 約4秒間の無音部分をつくる (オートレックミュート)

- ① 停止状態にする
- ② 録音キーを2回押す

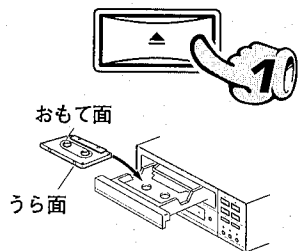


●約4秒間の無音部分をつくり、録音ポーズ状態になります。

### 録音をおわるには



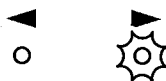
## 1. カセットデッキにテープを入れる



- ① カセットデッキのトレイを開く
- ② テープを入れる
- ③ トレイを閉める

- ノーマル(TYPE I)、ハイ(TYPE II)のテープの種別は、自動設定されます。
- テープは、たるみのない状態で入れてください。

走行方向表示を確認する



## 2. テープの進む向きを選ぶ

走行方向を逆にしたい場合

- ① 再生したい方向の再生キーを押す
- ② 停止する

- 録音を始めたとき、この手順で選んだ方向にテープが進みます。
- テープの頭出し(録音を始める位置をさがすこと)をしておきます。

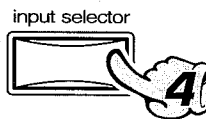
Dolby NR rev. mode



## 3. 録音条件を決める

- ① リバースモードを選ぶ - [21]
- ② ドルビー NR を選ぶ - [21]

## 4. 何を録音するか選ぶ



TAPE以外を選んでください。

録音したい入力ソースの表示にします。



- CDを選んだ場合、すでにディスクがセットされているときは、再生が始まります。

## 5. 録音をスタートさせる

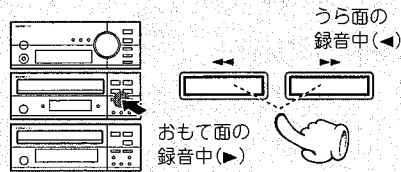
- ① 録音したい入力ソースを再生(受信)する
- ② 録音を始める



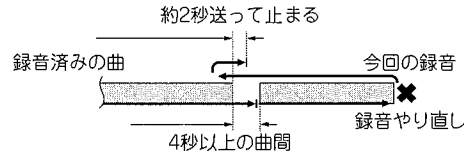
- CRLS機能を使用すると、録音レベルの自動調整ができます。 - [29]
- 録音する面(片面または両面)が終了すると、自動的に停止します。

録音をやり直したいとき  
録音開始位置に戻ります。

録音中に早戻しキーを押す



●録音が中止され、テープは図のように巻き戻されます。(録音開始位置の手前に4秒以上の無音部分がある場合)



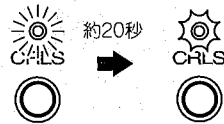
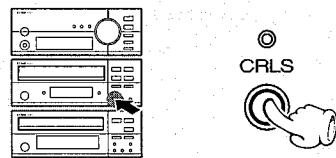
●録音済みの曲が手前でない場合は、テープを巻き取って止まります。

### 録音レベルを自動調整する(CRLS)

カセットデッキ(X-SA7)には、標準的な録音レベルがあらかじめ設定されていますが、CRLS機能を使うと、音楽ソースに最適の録音レベルを自動的に設定します。

① 録音したい内容を再生する  
(目的の放送局を受信する)

② CRLSキーを押す



一度もキーを押さないと...  
当社が設定した基本レベルで録音されます。

キーを押すと...  
録音レベルを自動設定し、そのとき選んでいた入力の録音レベルとして記憶します。次からはキーを押さなくても同じレベルで録音できます。

基本レベルに戻すには...  
インジケーターが消えるまで(約3秒間)キーを押したままにしてください。

- 約20秒で録音レベルの設定が終了し、録音ポーズ状態になります。
- 設定中(点滅中)に録音を始めると、ひずんだ音が録音される場合があります。
- CRLSキーを押したときから3秒以上無音が続くと、録音レベルの設定は中止されます。

### CDまたはMDから録音するときのポイント

CD,MDを録音するときは、カセットデッキを録音ポーズ状態にしておくと、音楽ソースの再生とカセットデッキの録音を同時に始めることができます(シンクロナイズ機能)。



- 再生するCDまたはMDを一時停止にする
  - 録音したい曲をスキップキー(◀◀ ▶▶)で選ぶ  
(選んだ曲の最初で一時停止になります。)
  - カセットデッキを録音ポーズ状態にする
  - CDまたはMDの再生を始める  
(シンクロナイズ録音がスタートします。)
- 再生機器の停止キーを押すと、録音を中止します。

### ドルビーHX Proとは

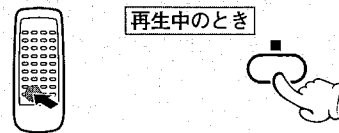
DOLBY HX Pro headroom extensionとは、録音中に、録音している音の周波数成分に応じてバイアス電流をコントロールすることで、シンバルなどの高音域を美しく録音するシステムです。本機で録音すると、自動的にこのシステムが働きます。

## 曲順を並べ替えて聴く(プログラム再生)

トレイに入れたディスクの中から好きな曲を、好きな曲順で聴くことができます。(最大32曲)

### 入力切換を"CD"にする

#### 1 停止状態を確認する

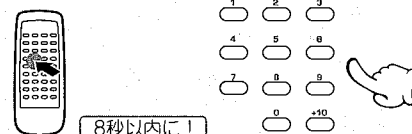


#### 2 "PGM"表示を点灯させる



#### 3 聴きたい順に曲を選ぶ

① 曲番号を選ぶ

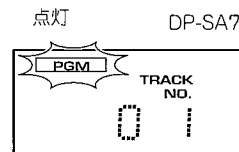
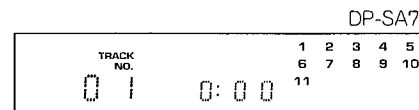


② 確定する

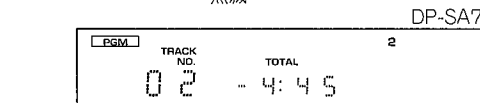
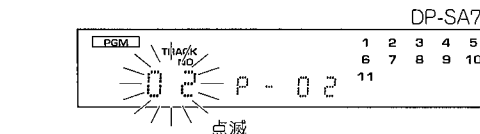
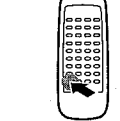


③ 手順①、②を繰り返す

#### 4 再生する



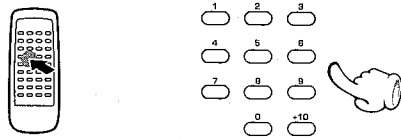
- 32曲まで選べます。"FULL"と表示されると、それ以上プログラムは受け付けません。
- 間違えたときは、CLEARキーを押してから選び直します。



- 選んだ順(P-番号順)に再生します。
- 再生中に ◀◀ または ▶▶ キーを押すと、前後のプログラム曲へ飛び越します。
- 再生中に ◀◀ キーを一回押すと、その曲の最初に戻ります。

## 曲を追加するには

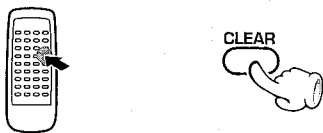
## ① 追加したい曲番号を選ぶ



## ② P.MODEキーを押す

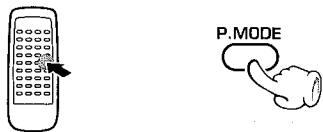
- 追加したい曲番号を選ぶとプログラムの最後に追加されます。

## プログラムした曲を取り消すには



- キーを押す度に、最後の曲から1曲ずつ消えていきます。
- 再生中の曲は取り消せません。

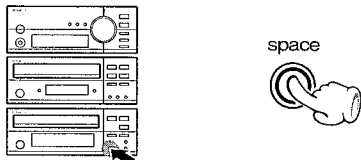
## プログラムを解除するには



- 再生中は、そのとき聴いている曲から曲番号順の再生に戻ります。
- オープンクローズキーを押しても解除します。

## スペース機能について

曲順のプログラム中に"space"キーを押すと、曲間に数秒間の無音部分が作られます(SPACEインジケータ点灯)。この状態でカセットに録音すれば、DPSS機能(無音部分を探す)を使って、テープの頭出しやリピート再生などが確実にこなせます。



- 前曲と次曲の演奏が繋がっている場合でも(クランックやライブ収録など)、別々の曲番号がついていれば無録音部分が作られます。
- 解除するときは、もう一度"space"キーを押してください。

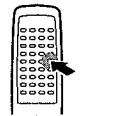
## 繰り返し聴く(リピート再生)

お気に入りの曲やディスクを繰り返し聴くことができます。

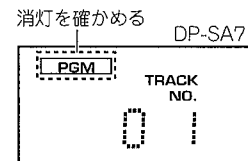
## 入力切換を"CD"にする

## 一枚のディスクを繰り返し聴く

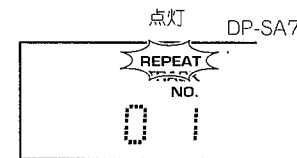
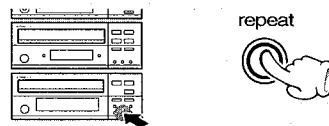
## ① "PGM"表示の消灯を確認する



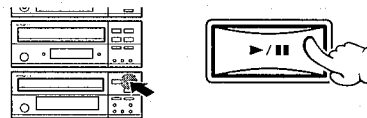
"PGM"表示が点灯しているときは、P.MODEキーを押して消灯させてください。



## ② "REPEAT"を指定する



## ③ 再生する



## 繰り返し再生をやめるには

"repeat"キーをもう一度押します。

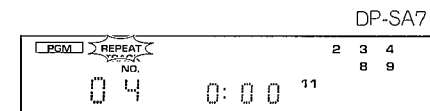
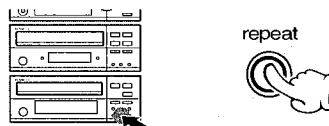
- "REPEAT"表示が消灯し、CDプレーヤーのモードに従った再生に戻ります。

## 選んだ曲だけを繰り返し聴く

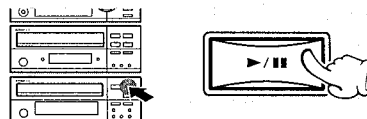
## ① "曲順を並べ替えて聴く(プログラム再生)"の手順④までを行い、聴きたい曲をプログラムする

-29-

## ② "REPEAT"を指定する



## ③ 再生する



## 繰り返し再生をやめるには

もう一度"repeat"キーを押します。

- "REPEAT"表示が消灯し、CDプレーヤーのモードに従った再生に戻ります。

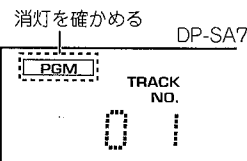
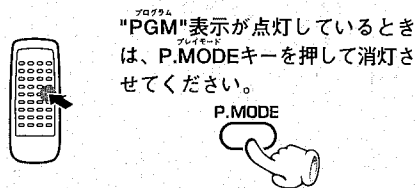


## 予期しない曲順を楽しむ (ランダム再生)

毎回曲がランダム(無作為)に選択されるので、飽きることなく楽しめます。

### 入力切換を"CD"にする

#### 1 "PGM"表示の消灯を確かめる



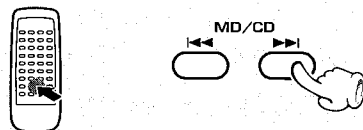
#### 2 RANDOMキーを押す



- 全曲の再生が1回終わると停止します。
- "repeat"キーを押すと、ランダム再生が繰り返されます。



### 曲の途中で別の曲を選ぶには



- ◀▶キーを1回押すと、再生している曲の初めに戻ります。

### ランダム再生をやめるには



- 再生中の曲から曲番順の再生になります。

## 便利なCD録音

## 便利なCD録音のタイプを選ぶ

本機では、目的に合わせて次のような編集録音ができます。

本機はメタルテープでの録音はできませんのでご注意ください。

テープの終わりで曲が途切れるのは絶対にいやだ

テープの長さに応じて曲順を入れ替える - [34]  
(タイム編集録音)

テープの長さをセットするだけの簡単な操作でCDを編集録音する方法です。

CDを聴きながら録音したい曲を選びたい

いい曲があれば、その曲だけ録音する - [35]  
(ワンタッチエディット1曲録音)

CDを聴いていて、録音したい曲が出てきたら、O.T.E.(ONE TOUCH EDIT)キーを押してください。その曲の頭から録音が始まります。

一枚のCDを曲順通りに録音したい

一枚のCDをワンタッチで録音する - [36]  
(ワンタッチエディット全曲録音)

CDの停止状態でO.T.E.(ONE TOUCH EDIT)キーを押すと、ワンタッチでディスクの録音を開始します。

# テープの長さに応じて曲順を入れ替える (タイム編集録音)

テープの録音時間を指定すると、テープの折り返しや  
終端で曲が途切れないように、自動的に曲順を入れ替  
えて録音します。

録音の準備が必要です

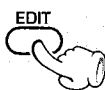
-26 (手順1~4)

## 1 "EDIT"の表示を点灯させる

① "PGM"表示の消灯を確認する

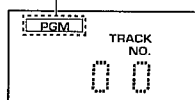
"PGM"表示が点灯しているときは、P.MODE  
キーを押して消灯させてください。

② EDITキーを押す

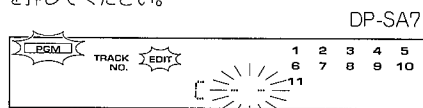


8秒以上放置すると、編集は中止されます。

消灯を確認する

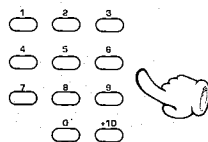


"EDIT"モードを解除するときは、リモコンのP.MODE  
キーを押してください。



DP-SA7

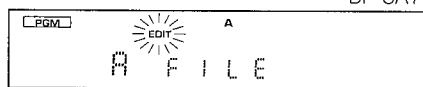
## 2 テープの長さをセットする



数字キーを押す順序は:

30分テープなら [+10] [+10] [+10] [0]  
46分テープなら [+10] [+10] [+10] [+10] [6]

DP-SA7

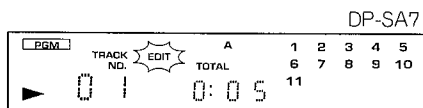


- 時間の入力をまちがえたときは、"EDIT"表示の点灯を確認して、手順①からやり直してください。
- 32曲まで編集できます。
- 自動編集が終了すると、"EDIT"表示が点灯します。
- >>> キーを押すたびに、編集された曲番号が順に表示されます。■ キーを押すと、最初の曲の曲番号に戻ります。

"time"キーを繰り返し押すと、46、  
54、60、90分テープを簡単に選べま  
す。選んだ後は、EDITキーを押して、  
手順③へ移ります。

"EDIT"表示の点滅が点灯になったことを確かめて  
から、手順③へ。

## 3 編集録音をスタートする



DP-SA7

- 録音が終了すると、自動的に停止します。

CDの内容(曲数や曲の長さ)とテープの録音時間など、条件の組み合わせにより、曲順を入れ換えても音の途切れが避けられない場合、その曲は録音されません。

応用編

# いい曲があれば、その曲だけ録音する (ワンタッチエディット1曲録音)

CD再生時に気に入った曲をその場で選び、録音する  
ことができます。

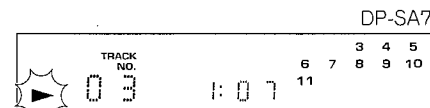
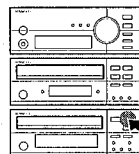
DM-SA7(別売)でMDを再生しているときは、同様  
の手順で、その曲だけをテープに録音することがで  
きます。

録音の準備が必要です

-26 (手順1~4)

## 1 CDを再生する

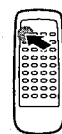
ランダム再生以外を選んでくだ  
さい



DP-SA7

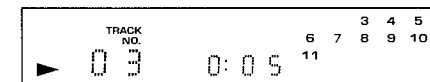
点灯

## 2 録音したい曲の再生中にO.T.E.(ONE TOUCH EDIT)キーを押す



3曲目でキーを押したとき

DP-SA7



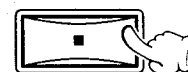
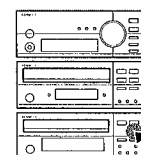
- 再生中の曲の初めに戻り、録音が始まります。

録音が終了すると、4秒間の無録音部分を作り、  
カセットデッキが停止します。CDプレーヤーは  
一時停止状態になります。

他の曲を録音するには.....手順①、②を繰り返し  
てください。



録音を途中でやめるとき



- カセットデッキとCDプレーヤーが停止します。

応用編

## 一枚のCDをワンタッチで録音する (ワンタッチエディット全曲録音)

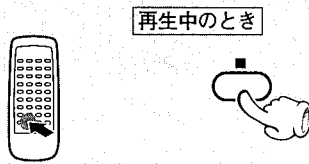
CD停止中にO.T.E. (ワンタッチエディット)キーを押すと、CDの再生と同時に録音を開始することができます。

DM-SA7 (別売) を接続しているときは、入力切換を"MD"にしておくと、同様の手順で一枚のMDをワンタッチでテープに録音することができます。

録音の準備が必要です

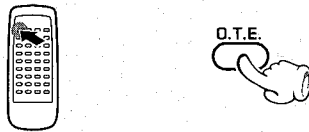
-26 (手順1~4)

### 1 停止状態を確認する



曲順をプログラムしてから手順 2 を行うこともできます。

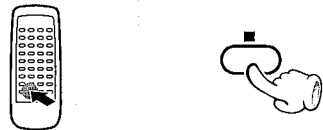
### 2 O.T.E. (ONE TOUCH EDIT) キーを押す



- CDの再生と同時に録音が始まります。
- カセットテープの折り返し部分では、ガイドテープの分だけ曲が録音されません。曲が途切れないように録音したいときは、「録音のしかた」にしたがってうら面の最初から録音し直してください。

-26

録音を途中でやめるとき



- カセットデッキとCDプレーヤーが停止します。

# 高音質で聴く (ピュアA)

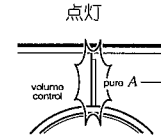
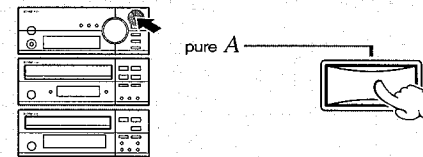
## ピュアAモードで聴く

セットのそばで聴くときや、夜間など小音量で聴くときは、純A級動作モード(ピュアA)にすることをおすすめします。ひずみが少なく、滑らかな高音質をお楽しみいただけます。大きめの音量で聴くときは、通常モードでお楽しみください。

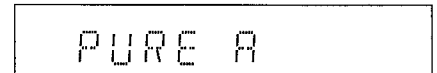
### 注意

ピュアAモードのときは、音楽ソースを再生していないときにも常に一定の電力が消費されているので、アンプ部の温度が高くなります。

### 1 ピュアAをオンにする

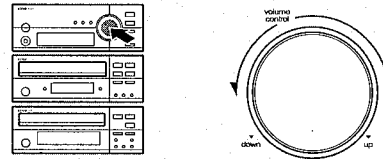


R-SA7

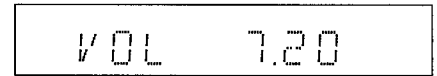


### 2 音楽を再生する

### 3 音量を調節する



R-SA7



音量の表示

- 小音量にあわせた音量表示に変わります。
- ピュアAモードのときにもう一度押すと、通常モードになります。(ピュアAインジケータ消灯)

### ピュアAとは

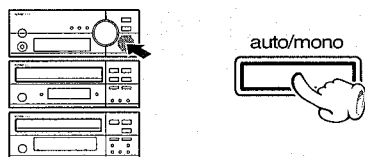
アンプ部は、CDなどから入ってくる音の信号の電圧と電流を増幅し、スピーカーに送るはたらきをしています。この電流を増幅するときに発生するひずみを抑えるため、A級動作またはAB級動作と呼ばれるアンプでは、電流を増幅する回路部に常に電流が流れています。これをアイドル電流といいます。特にA級動作アンプでは、多くの機器で採用されているAB級動作アンプに比べて多くのアイドル電流が流れています。この結果、A級動作の特性として、ひずみは最小限に抑えられ、なめらかな高音質の再生が可能になります。しかし一方では、音楽ソースを再生していないときにも、常に一定の電力が消費されているので、アンプ部の温度が比較的高くなります。このためA級動作の音質を楽しむには、大容量の電源を持つ高級アンプが必要でした。本機は通常モードではAB級動作アンプですが、手軽にA級動作アンプの高音質をお楽しみいただくために、小音量で聴くときに使用できるA級動作モード(ピュアA)を用意しました。セットのそばで聴くときや夜間など、小音量で聴くときは、ぜひピュアAの音質をお楽しみください。

本機には、時計機能がついています。タイマーを使う前に必ず正確な時刻を合わせてください。

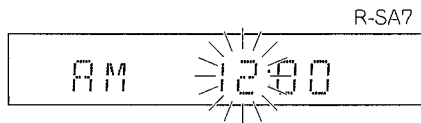
RSA7/DP-SA7/X-SA7 (J)

電源がオフになっていることを確認してください。

## 1 時刻合わせモードにする



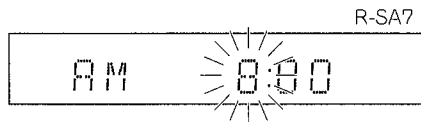
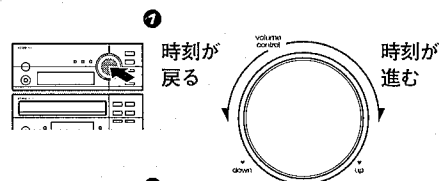
8時45分に合わせる例



R-SA7

- 時間表示が点滅を始めます。

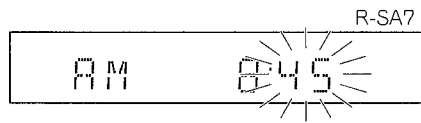
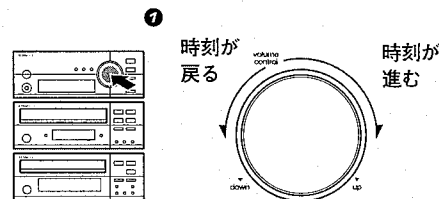
## 2 時間を合わせる



R-SA7

- 時刻は12時間表示で表示されます。
- "enter"キーを押すと時間が設定されて、分表示が点滅を始めます。

## 3 分を合わせる



R-SA7

- 間違えて押したときは、最初からやり直してください。
- 時報と同時に"enter"キーを押すと正確な時刻表示ができます。
- 停電があったり、電源プラグをコンセントから抜いたときは、時刻表示が点滅します。その場合は、もう一度時刻合わせをしてください。

時刻合わせを済ませてから、タイマーを設定してください

RSA7/DP-SA7/X-SA7 (J)

オペレート イージー トゥー ユーズ タイマー (O.T.T.)

指定の時刻に、選んだ入力ソースの再生が始まり、1時間経つと電源がオフになります。設定直後の1回だけ働きます。おやすみタイマー

設定した時間が過ぎると、自動的に電源が切れます。

タイマー再生、タイマー録音

設定した時間帯に、選んだソースを再生(または放送を録音)します。

AI タイマー再生

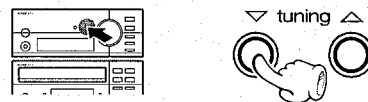
タイマー再生開始後、徐々に音量が大きくなります。

時刻合わせを済ませてから、タイマーを設定してください。

## オペレート イージー トゥー ユーズ タイマー (Operate easy To use Timer : O.T.T.)

時刻をセットするだけのカンタンな操作で、タイマー再生ができます。電源をオフにする前に、最後に選ばれていたソースが再生されます。タイマー再生開始から1時間で、電源が自動的にオフになります。

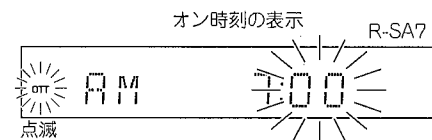
- 1 聴きたいソースを選び、音量を設定する
- 2 電源をオフにする
- 3 tuning(▽)キーを押す



O.T.T.タイマーで再生されている間は、プログラムタイマーは動きません。

- tuning(▽)キーを押すと、入力ソースの表示になり、数秒後にオン時刻の表示になります。

- 4 オン時刻をセットする

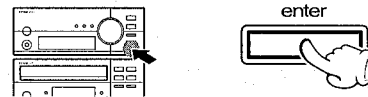


オン時刻の表示

R-SA7

- オン時刻は、5分単位で設定できます。
- 他のタイマーと組み合わせた場合、最後に動作した入力ソースが再生されます。

- 5 決定する



解除するには

電源がオフのままで、tuning(▽)キーを2回押す。

## おやすみタイマー

何分後に電源を切るかを設定します

- 1 電源をオンにする



- 2 時間を設定する



- セットした時間が過ぎると、自動的に電源がオフになります。
- 1回押すごとに10分ずつ減っていきます。最大約90分まで設定できます。

90 → 80 → 70 ..... 30 → 20 → 10 → 解除 → 90 → 80 .....

点灯 R-SA7



セットする時間

解除するには

電源をオフにする、またはSLEEPキーを解除になるまで押す

### プログラムタイマー予約

24時間タイマーです(毎日働きます)。

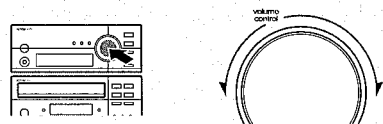
働く時間帯と内容を予約しておき、必要に応じて、働かせるか、働かせないかを選べます。

時刻合わせを済ませてから、タイマーを設定してください

#### 1 聴く(録音する)ための準備をする

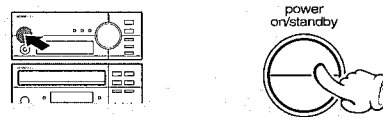
- 放送局を聴く  
放送局をプリセットしておく → 25
  - CDを聴く  
ディスクを入れる(プログラム再生はできません。)
  - テープを聴く  
カセットデッキにテープをセットする
  - MDを聴く  
MDレコーダーにディスクをセットする
  - 録音をする  
録音の準備をする → 26 手順1~4
- MDレコーダー(DM-SA7)で再生・録音するときはDM-SA7に付属の取扱説明書をあわせてご覧ください。

#### 2 音量を調節する

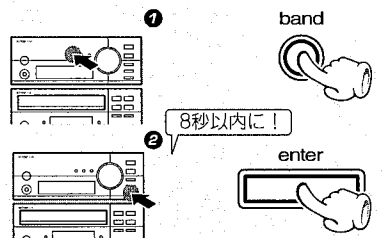


● 放送を録音するときは、タイマーで電源がオンになると、ミュートが自動的にオンになります。

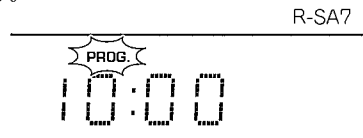
#### 3 電源をオフ(スタンバイ状態)にする



#### 4 タイマー予約モードにする



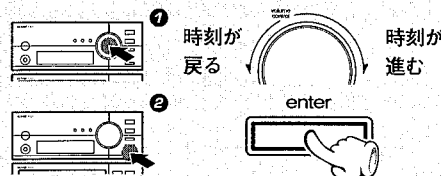
- "PROG."インジケーターが点灯します。
- すでに予約されているときは、新しい設定内容に変わります。



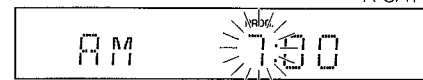
R-SA7

応用編

#### 5 オン時刻を設定する



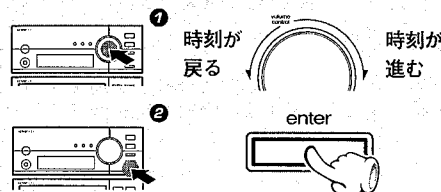
- ①、②の手順を行ない"時"を入力した後、同じ手順で"分"を入力します。



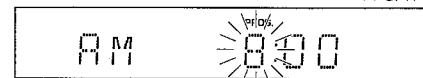
R-SA7

- 間違えたときは手順②からやり直してください。

#### 6 オフ時刻を設定する



- ①、②の手順を行ない"時"を入力した後、同じ手順で"分"を入力します。

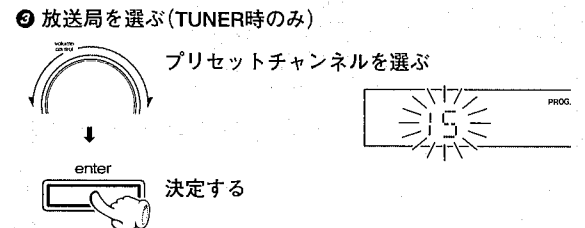
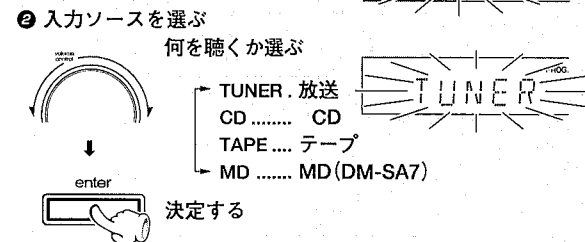
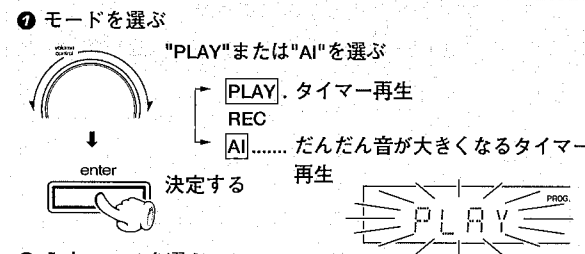


R-SA7

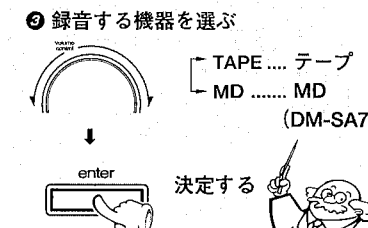
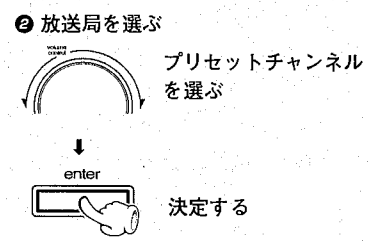
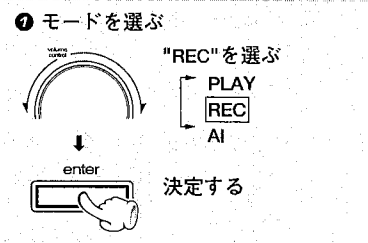
- 間違えたときは手順②からやり直してください。

#### 7 希望の予約を設定する

タイマー再生、AIタイマー再生をするとき



放送のタイマー録音をするとき

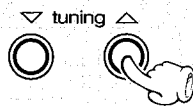
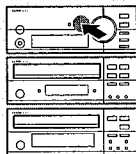


次ページに続く

応用編



## 8 プログラムをセットする



- "PROG."インジケーターが点灯します。



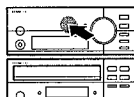
- プログラムをセットしないと、タイマーは働きません。

以上でプログラムタイマー予約は終了です。確認・変更などをするときには、次の項をご覧ください。

電源がオフになっていることを確認してください。

- 予約内容は、削除できません。内容を変更することにより、以前の内容が消されます。

## 予約の内容を確認する



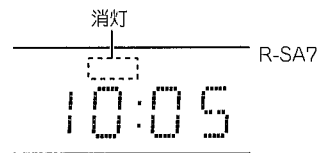
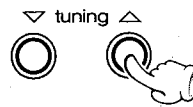
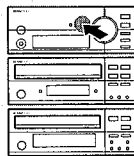
- 予約内容を3秒ずつ表示していきます。そのあと、元に戻ります。

### 予約内容を変更したいときは

"タイマー予約をする"を始めからやり直してください。

## タイマーを働かせたくないとき

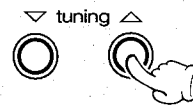
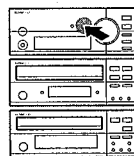
プログラム表示を消灯させる



- 予約内容は記憶しています。

## 再び同じ内容のタイマーをセットする

プログラム表示を点灯させる



- ディスク、テープの準備、音量の調節をしておきます。

# 知っておきましょう

## メンテナンス

### ヘッドのお手入れ

#### ヘッド回りのクリーニング

いつまでも最良の状態でご使用になるには、テープ再生時間約10時間ごとに、ヘッド(録音/再生/消去)、キャプスタン、ピンチローラーのクリーニングを心がけてください。

クリーニングは、市販のクリーニングテープで行ってください。詳しくは、クリーニングテープの取扱説明書をお読みください。

#### ヘッドの消磁

録音・再生ヘッドが磁気を帯びると雑音が大きくなります。市販の消磁器(ヘッドイレーサー)で消磁してください。

### セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

### 参考

#### 露付きにご注意

水蒸気が、冷たいものの表面にふれて水滴が付くことを「露付き」といいます。この現象がおきますと、正常に動作しないか、または、まったく動作しないことがあります。

これは故障ではありませんが、露がとれるまでしばらく乾燥させる必要があります。

本機の電源を入れた状態で、そのまま放置してください。長くても数時間で露が乾いてきます。

次のような状態のときは、特に露付きにご注意ください。

- 寒いところから暖かい部屋など気温差の大きいところへ持ち込んだとき。
- 暖房をきかせはじめたとき。
- 冷房のよくきいた部屋から、湿度が高く気温の高い部屋へ持ち込んだとき。
- その他本機の温度と外気温との差が大きく、露付きの状態になりやすい条件のとき。

ドルビーノイズリダクションおよびHX PROヘッドルームエクステンションは、ドルビーラポラトリーズライセンスコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。

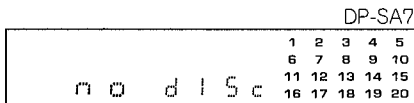
HX PROは、バング アンド オルフセンの考案です。ドルビー、DOLBY、ダブルD記号およびHX PROは、ドルビーラポラトリーズライセンスコーポレーションの商標です。

#### 輸送時または移動時のご注意

本機を輸送するときや、移動するときは、下記の操作を行ってください。

1. ディスクを入れないで電源をオンにします。

2. 数秒間待って、ディスプレイ部が図の表示になったことを確かめてください。



3. 電源をオフにします。

#### 著作権について

あなたが録音または録画したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

#### メモリーバックアップ

電源プラグをコンセントから抜くとすぐ消えるメモリーの内容	時計表示
電源プラグをコンセントから抜いて最低1日で消えるメモリーの内容	アンプ部 POWERの状態(ONまたはOFF) 入力切換 ボリュームの値 チューナー部 受信バンド 周波数 プリセット放送局 プログラムの設定内容

#### ステレオ音のエチケット



楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を開めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

# 故障と思われる症状ですが . . . .

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に、症状にあわせて一度チェックして見てください。

#### マイコンをリセットするには

電源がオンのときの接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作(操作できない、ディスプレイの誤表示など)することがあります。この場合、次の手順をお試しください。マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

#### R-SA7

電源プラグをコンセントから抜き、「power」キーを押しながら、差し込み直す。

#### DP-SA7

電源プラグをコンセントから抜き、もう一度差し込み直す。

#### X-SA7

電源プラグをコンセントから抜き、「stop」キーを押しながら、差し込み直す。

- リセットにより、各種の記憶内容は消滅し、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

#### アンプ・チューナー・スピーカー

症 状	原 因	処 置	参照
音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。  ●音量を最小にしている。 ●ミュートがオンになっている。 ●ヘッドホンプラグが差込まれている。	●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。 ●適当な音量にする。 ●ミュートをオフにする。 ●ヘッドホンプラグを抜く。	→ 10 → 16 → 17 → 17
表示部がすべてのケタで"-."の点滅表示となり、音が出ない。	●スピーカーコードがショートしている。	●一時電源スイッチを切り、ショートを取り除き、再度電源スイッチを入れる。	→ 10
スピーカーの片側から音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。	●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。	→ 10
時刻表示が、ある時間で止まったまま点滅している。	●停電があった。 ●電源プラグを一度抜いた。	●現在時刻をもう一度合わせる。 ●現在時刻をもう一度合わせる。	→ 38 → 38
タイマーが作動しない。	●現在時刻を合わせていない。停電があった。 ●タイマーのオン時刻とオフ時刻を設定していない。 ●タイマーの実行指定をしていない。	●"時刻合わせ"をみて現在時刻を合わせる。 ●タイマーのオン時刻とオフ時刻を設定する。 ●"Tuning(Δ)"キーで実行指定をする。	→ 38 → 40 → 42
放送局が受信できない。	●アンテナを接続していない。 ●放送バンドが合っていない。 ●受信したい放送局の周波数に合っていない。	●アンテナを接続する。 ●放送バンドを合わせる。 ●受信したい放送局の周波数に合わせる。	→ 7 → 24 → 24
雑音が入る。	●自動車のイグニッションノイズ。  ●電気器具の影響によるもの。 ●テレビが近くにある。	●外部アンテナを道路から離して設置する。 ●電気器具の電源を切ってみる。 ●テレビから離す。	→ 7

## アンプ・チューナー・スピーカー

症状	原因	処置	参照
プリセットしたあと、プリセットコールで受信できない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●プリセットした放送局が、受信できない周波数である。</li> <li>●長い間、電源コンセントを抜いていたため、メモリーが消えてしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●受信できる周波数の放送局をプリセットする。</li> <li>●もう一度プリセットする。</li> </ul>	<p>→ [25]</p> <p>→ [25]</p>

## カセットデッキ

症状	原因	処置	参照
再生キーを押しても音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヘッドが汚れている。</li> <li>●巻き取りムラがありテープが重くなっている。</li> <li>●未録音テープを再生している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●"ヘッドのお手入れ"をみてヘッドを清掃する。</li> <li>●テープを交換してみる。</li> <li>●録音済みテープを使う。</li> </ul>	<p>→ [43]</p>
操作キーを押しても作動しない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電源を入れてから、4秒以内に操作キーを押している。</li> <li>●テープが入っていない。</li> <li>●巻き取りムラがありテープが重くなっている。</li> <li>●テープがどちらかに巻き取られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4秒以上たってから操作キーを押す。</li> <li>●テープを入れる。</li> <li>●テープを交換してみる。</li> <li>●デッキの走行方向をかえる、またはテープを裏返す。</li> </ul>	<p>→ [20]</p> <p>→ [20]</p> <p>→ [21]</p>
DPSSが誤動作する。	●曲と曲の間が短いなどDPSSに不適当なテープを使用している。	●"飛び越し選曲"をお読みください。	→ [22]
オープンクローズキーを押してもトレイが開かない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●録音中に押している。</li> <li>●外部からの雑音によりマイコンが誤動作した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●停止状態で押す。</li> <li>●いったん電源プラグを抜いて差し込み直す。</li> </ul>	<p>→ [21]</p> <p>→ [45]</p>
音がかすれたり高音が出なくなる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヘッドが汚れている。</li> <li>●テープがのびたり、ワカメ状になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●"ヘッドのお手入れ"をみてヘッドを清掃する。</li> <li>●テープを交換する。</li> </ul>	→ [43]
音がひずむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●CRLSキーで録音レベルの設定をしていない。</li> <li>●ひずんだ音で録音されたテープを再生している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●"録音のしかた"をお読みください。</li> <li>●テープを交換する。</li> </ul>	→ [26]
雑音が大きい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヘッドが磁気を帯びている。</li> <li>●外部の雑音を誘導している。</li> <li>●ドルビーNRをオンで録音したテープをオフで再生している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●"ヘッドのお手入れ"をみて消磁する。</li> <li>●電気器具、テレビなどから離す。</li> <li>●DOLBY NRをオンにする。</li> </ul>	<p>→ [43]</p> <p>→ [21]</p>
音がふるえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャプスタン、ピンチローラーが汚れている。</li> <li>●テープに巻き取りムラがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●"ヘッドのお手入れ"をみてヘッドを清掃する。</li> <li>●テープの端から端まで通して早送り、巻戻し、または再生をして巻き直す。</li> </ul>	<p>→ [43]</p> <p>→ [21]</p>

## カセットデッキ

症状	原因	処置	参照
録音キーを押しても録音できない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●カセットテープのツメが折れている。</li> <li>●入力切換キーが、TAPEになっている。</li> <li>●テープがどちらかに巻き取られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ツメの折れていないテープを使う、または穴をふさぐ。</li> <li>●入力切換キーを録音したいソースにする。</li> <li>●デッキの走行方向をかえる、またはテープを裏返す。</li> </ul>	<p>→ [5]</p> <p>→ [27]</p> <p>→ [26]</p>

## CDプレーヤー

症状	原因	処置	参照
ディスクを入れても再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ディスクが裏返しに入っている。</li> <li>●ディスクがずれている。</li> <li>●ディスクがひどく汚れている。</li> <li>●ディスクに傷がついている。</li> <li>●光学レンズに露がついている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ラベル面を上にして、正しく入れる。</li> <li>●ディスクを正しく入れ直す。</li> <li>●"ディスク取扱上のご注意"を参照し、ディスクを清掃する。</li> <li>●ディスクを取り換える。</li> <li>●"露付きにご注意"を参照し露を蒸発させる。</li> </ul>	<p>→ [18]</p> <p>→ [18]</p> <p>→ [5]</p> <p>→ [44]</p>
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ディスクが入っていない。</li> <li>●再生状態になっていない。</li> <li>●ディスクがひどく汚れている。</li> <li>●ディスクに傷がついている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ディスクを入れる。</li> <li>●▶/II キーを押す。</li> <li>●"ディスク取扱上のご注意"を参照し、ディスクを清掃する。</li> <li>●ディスクを取り換える。</li> </ul>	<p>→ [18]</p> <p>→ [18]</p> <p>→ [5]</p>
音とびがする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ディスクが汚れている。</li> <li>●ディスクに傷がついている。</li> <li>●本機に震動が加わっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●"ディスク取扱上のご注意"を参照し、ディスクを清掃する。</li> <li>●ディスクを取り換える。</li> <li>●震動のない場所に設置する。</li> </ul>	→ [5]

## リモコン

症状	原因	処置	参照
リモコンで操作できない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電池切れ。</li> <li>●操作する位置が遠すぎる、角度がずれている。または障害物がある。</li> <li>●再生しようとする機器に、テープ、CDが入っていない。</li> <li>●録音中のカセットデッキで再生しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新しい電池に入れ換える。</li> <li>●操作範囲内で操作する。</li> <li>●再生しようとする機器に、テープ、CDを入れる。</li> <li>●録音が終わるまで待つ。</li> </ul>	<p>→ [15]</p> <p>→ [15]</p>



1. テープの種類によっては、自動的にテープが止まったときに"キュー"という音がかかります。これはテープ保護機構が働いたため、故障ではありません。
2. 110分以上のテープは、テープ厚が薄くてわかめ状になりやすいため、ご使用にならないください。



△ このページは、安全確保のために必ずお読みください。

RS-A7/DP-SA7/X-SA7 (J)

### アンプ・チューナー (R-SA7)

[チューナー部]  
FMチューナー部  
受信周波数範囲 ..... 76MHz~90MHz  
実用感度 (モノラル)  
..... 2.0  $\mu$ V (75  $\Omega$ ) / 17.2 dBf  
SN比 (1 kHz, 75 kHz dev.)  
モノラル ..... 73 dB (65 dBf 入力時)  
ステレオ ..... 65 dB (65 dBf 入力時)  
実効選択度 ( $\pm$ 400 kHz) ..... 50 dB  
ステレオ セパレーション (1 kHz) ..... 40 dB  
出力レベル/インピーダンス (FM 1kHz、75kHz DEV.)  
固定出力 ..... 0.6 V / 1 k $\Omega$

#### AMチューナー部

受信周波数範囲 ..... 531kHz~1,602kHz  
実用感度 ..... 12  $\mu$ V (500  $\mu$ V / m)  
SN比  
モノラル ..... 51 dB  
ステレオ ..... 38 dB  
ステレオ セパレーション ..... 30 dB

#### [アンプ部]

実用最大出力  
AB級 ..... 20W+20W (EIAJ 6 $\Omega$ )  
A級 ..... 5W+5W (EIAJ 6 $\Omega$ )  
SN比  
ライン ..... 92dB (EIAJ)  
全高調波ひずみ率 ..... 0.02 % (1 kHz、10 W、6  $\Omega$ )  
周波数特性  
ライン ..... 20 Hz~100 kHz、+0 dB、-3 dB  
入力感度/インピーダンス  
ライン ..... 200 mV / 47 k $\Omega$   
出力レベル/インピーダンス  
TAPE REC ..... 200 mV / 1 k $\Omega$   
スーパーウーファープリアウト ..... 2 V / 1 k $\Omega$

#### [電源部・その他]

電源電圧・電源周波数 ..... AC100V, 50Hz/60Hz  
定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示) ..... 35W  
最大外形寸法 ..... 幅 200mm  
高さ 75mm  
奥行 264mm  
質量 (重量) ..... 3.3kg (正味)

### CDプレーヤー (DP-SA7)

読み取り方式 ..... 非接触光学式読み取り  
(半導体レーザー)  
回転数 ..... 200rpm~500rpm (CLV)  
周波数特性 (EIAJ) ..... 8 Hz~20,000 Hz  
SN比 (EIAJ) ..... 93 dB以上  
ダイナミックレンジ (EIAJ) ..... 90 dB以上  
全高調波ひずみ率 (EIAJ) ..... 0.006 %以下 (1 kHz)  
チャンネルセパレーション (EIAJ) ... 90 dB以上 (1 kHz)  
ワウ・フラッター (EIAJ)  
..... 測定限界以下 ( $\pm$ 0.001% W PEAK)  
出力レベル/インピーダンス  
固定出力 ..... 1.2 V / 1 k $\Omega$   
デジタル出力  
オプティカル ..... -15 dBm ~ -21 dBm  
(発光波長 660 nm)

#### [電源部・その他]

電源電圧・電源周波数 ..... AC100V, 50Hz/60Hz  
定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示) ..... 10W  
ACコンセント ..... 2 (非連動最大合計 200W)  
最大外形寸法 ..... 幅 200 mm  
高さ 75 mm  
奥行 250 mm  
質量 (重量) ..... 1.9 kg (正味)

△ このページは、安全確保のために必ずお読みください。

RS-A7/DP-SA7/X-SA7 (J)

### カセットデッキ (X-SA7)

トラック方式 ..... 4トラック2チャンネルステレオ  
録音方式 ..... 交流バイアス (周波数: 105kHz)  
ヘッド  
録音・再生ヘッド ..... 1  
消去ヘッド ..... 1  
モーター ..... DCモーター  $\times$ 1  
ワウ&フラッター ..... 0.1% (W.RMS)  
早巻き時間 ..... 約110秒 (C-60)  
周波数特性  
TYPE I (ノーマルテープ) .. 40Hz~18kHz,  $\pm$ 3dB  
TYPE II (クロームテープ) .. 40Hz~19kHz,  $\pm$ 3dB  
総合SN比 (クロームテープ)  
DOLBY NR OFF ..... 60dB  
DOLBY B NR ON ..... 67dB  
DOLBY C NR ON ..... 73dB  
入力感度/インピーダンス  
ライン (REC) ..... 77.5mV/47k $\Omega$   
出力レベル/インピーダンス  
ライン (PLAY) ..... 775mV/10k $\Omega$

#### [電源部・その他]

電源電圧・電源周波数 ..... AC100V, 50Hz/60Hz  
定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示) ..... 10W  
ACコンセント ..... 1 (非連動最大100W)  
最大外形寸法 ..... 幅 200mm  
高さ 75mm  
奥行 249mm  
質量 (重量) ..... 2.2kg (正味)



- これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
- 極端に寒い (摂氏0度以下) の場所では、十分に性能を発揮できないことがあります。

保証について

保証書

製品には保証書が別途添付されています。所定事項(お買い上げ日、販売店名など)が記載されていること、ならびに記載の内容を必ずご確認ください。大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

修理をご依頼になるときは

「故障と思われる症状ですが...」を参照してお調べいただき、なお異常があるときは、製品の電源をオフにし、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスステーション、営業所にご連絡ください。  
(別紙“全国サービス網”をご参照ください。)

保証期間内の場合は...

保証書の記載内容に従い、お買い上げの販売店、またはケンウッドのサービスステーション、営業所が無料修理いたします。修理の際は保証書をご提示ください。



- 電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理料金のしくみ(有料修理の場合、これらの費用が必要です。)

- 技術料: 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代: 修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料: 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

シリアル番号について

システム商品の各機器に製造シリアル番号がつけられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。付属の保証書で、お買い上げのシステム機器(基本システム)すべての保証修理が受けられます。

持込修理と出張修理

「持込修理」「出張修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。



- 修理のために、セットを販売店やケンウッドのサービスステーション、営業所までお持ちになるときは、お買い上げのセット全部をお持ちください。(スピーカーは除きます)
- セットを修理に持ち込まれる際は、輸送中にキズが付くのを防ぐため、必ず包装してください。(お買い上げ時の梱包材の再使用が理想的です。)

保証期間が過ぎている場合は...

お買い上げの販売店、またはケンウッドのサービスステーション、営業所にご相談ください。修理すれば使用できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理します。



- 補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後、8年間です。
- この期間は、通産省の指導によるものです。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

出張修理を依頼されるときは、次のことをお知らせください。

- 製品名 .....
- 製造番号(SERIAL No.) .....
- お買い上げ年月日 .....
- お買い上げの販売店名 .....
- 故障の症状(できるだけ具体的に) .....
- お客様の連絡先(お名前、住所、電話番号) .....

